

有価証券報告書

第 3 3 期

自 2018 年 4 月 1 日
至 2019 年 3 月 31 日

- 1 本書は金融商品取引法第 24 条の 1 に基づく有価証券報告書を、同法第 27 条の 30 の 2 に規定する開示用電子情報処理組織（EDINET）を使用して提出したデータに、目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、監査報告書及び内部統制監査報告書、内部統制報告書並びに確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

| 表紙 | 頁 |
|------------------------------------|----|
| 第一部 企業情報 | 1 |
| 第1 企業の概況 | 1 |
| 1 主要な経営指標等の推移 | 1 |
| 2 沿革 | 3 |
| 3 事業の内容 | 4 |
| 4 関係会社の状況 | 6 |
| 5 従業員の状況 | 7 |
| 第2 事業の状況 | 8 |
| 1 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等 | 8 |
| 2 事業等のリスク | 8 |
| 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 | 12 |
| 4 経営上の重要な契約等 | 16 |
| 5 研究開発活動 | 16 |
| 第3 設備の状況 | 17 |
| 1 設備投資等の概要 | 17 |
| 2 主要な設備の状況 | 18 |
| 3 設備の新設、除却等の計画 | 20 |
| 第4 提出会社の状況 | 21 |
| 1 株式等の状況 | 21 |
| 2 自己株式の取得等の状況 | 23 |
| 3 配当政策 | 24 |
| 4 コーポレート・ガバナンスの状況等 | 25 |
| 第5 経理の状況 | 33 |
| 1 連結財務諸表等 | 34 |
| 2 財務諸表等 | 65 |
| 第6 提出会社の株式事務の概要 | 76 |
| 第7 提出会社の参考情報 | 77 |
| 1 提出会社の親会社等の情報 | 77 |
| 2 その他の参考情報 | 77 |
| 第二部 提出会社の保証会社等の情報 | 78 |
| | |
| (添付) 監査報告書及び内部統制監査報告書 | |
| 内部統制報告書 | |
| 確認書 | |

【表紙】

| | |
|-------------------|----------------------------------|
| 【提出書類】 | 有価証券報告書 |
| 【根拠条文】 | 金融商品取引法第24条第1項 |
| 【提出先】 | 近畿財務局長 |
| 【提出日】 | 2019年6月26日 |
| 【事業年度】 | 第33期(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日) |
| 【会社名】 | 株式会社 成学社 |
| 【英訳名】 | SEIGAKUSHA CO., LTD. |
| 【代表者の役職氏名】 | 代表取締役社長 永井 博 |
| 【本店の所在の場所】 | 大阪府大阪市北区中崎西三丁目1番2号 |
| 【電話番号】 | 06-6373-1529 |
| 【事務連絡者氏名】 | 常務取締役 藤田 正人 |
| 【最寄りの連絡場所】 | 大阪府大阪市北区中崎西三丁目1番2号 |
| 【電話番号】 | 06-6373-1595 |
| 【事務連絡者氏名】 | 常務取締役 藤田 正人 |
| 【縦覧に供する場所】 | 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) |

(注) 第33期有価証券報告書より、日付の表示を和暦から西暦に変更しております。

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

| 回次 | 第29期 | 第30期 | 第31期 | 第32期 | 第33期 |
|-----------------------------|----------------|--------------|----------------|----------------|----------------|
| 決算年月 | 2015年3月 | 2016年3月 | 2017年3月 | 2018年3月 | 2019年3月 |
| 売上高 (千円) | 10,390,693 | 10,676,230 | 10,888,371 | 11,243,646 | 11,890,709 |
| 経常利益 (千円) | 468,993 | 402,376 | 267,455 | 317,124 | 679,748 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 (千円) | 210,912 | 184,570 | 132,298 | 102,191 | 396,730 |
| 包括利益 (千円) | 208,701 | 185,955 | 135,156 | 105,612 | 393,283 |
| 純資産額 (千円) | 2,362,771 | 2,205,341 | 2,285,517 | 2,334,491 | 2,669,478 |
| 総資産額 (千円) | 6,420,897 | 6,600,248 | 6,829,167 | 7,988,291 | 8,858,222 |
| 1株当たり純資産額 (円) | 402.12 | 399.10 | 413.61 | 422.48 | 483.10 |
| 1株当たり当期純利益金額 (円) | 35.90 | 32.86 | 23.94 | 18.49 | 71.80 |
| 潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円) | 35.88 | — | — | — | — |
| 自己資本比率 (%) | 36.8 | 33.4 | 33.5 | 29.2 | 30.1 |
| 自己資本利益率 (%) | 9.2 | 8.1 | 5.9 | 4.4 | 15.9 |
| 株価収益率 (倍) | 25.5 | 26.2 | 38.2 | 53.7 | 13.0 |
| 営業活動による キャッシュ・フロー (千円) | 788,649 | 523,407 | 464,644 | 356,759 | 817,287 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー (千円) | △438,795 | △347,376 | △572,397 | △1,126,072 | △606,522 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー (千円) | △96,165 | △76,902 | △108,771 | 673,040 | 228,746 |
| 現金及び現金同等物 の期末残高 (千円) | 1,094,921 | 1,194,049 | 977,272 | 882,402 | 1,319,467 |
| 従業員数 〔外、平均臨時雇用者数〕 (名) | 546 〔1,089〕 | 621 〔996〕 | 623 〔1,036〕 | 662 〔1,077〕 | 702 〔1,094〕 |

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 従業員数欄の〔外書〕は、臨時従業員の年間平均雇用人員（1日8時間換算）であります。

3 第30期から第33期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第33期の期首から適用しており、第32期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

(2) 提出会社の経営指標等

| 回次 | 第29期 | 第30期 | 第31期 | 第32期 | 第33期 |
|-----------------------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 決算年月 | 2015年3月 | 2016年3月 | 2017年3月 | 2018年3月 | 2019年3月 |
| 売上高 (千円) | 9,856,971 | 10,212,873 | 10,398,546 | 10,876,607 | 11,606,358 |
| 経常利益 (千円) | 465,592 | 374,190 | 214,310 | 332,124 | 633,046 |
| 当期純利益 (千円) | 215,338 | 167,978 | 95,882 | 179,286 | 392,221 |
| 資本金 (千円) | 235,108 | 235,108 | 235,108 | 235,108 | 235,108 |
| 発行済株式総数 (株) | 5,876,000 | 5,876,000 | 5,876,000 | 5,876,000 | 5,876,000 |
| 純資産額 (千円) | 2,196,986 | 2,022,964 | 2,066,976 | 2,191,218 | 2,523,544 |
| 総資産額 (千円) | 6,066,550 | 6,297,963 | 6,415,337 | 7,684,547 | 8,234,782 |
| 1株当たり純資産額 (円) | 373.91 | 366.10 | 374.06 | 396.55 | 456.69 |
| 1株当たり配当額 (内、1株当たり中間配当額) (円) | 9.50 (4.75) | 9.80 (4.90) | 10.10 (5.05) | 10.40 (5.20) | 10.70 (5.35) |
| 1株当たり当期純利益金額 (円) | 36.65 | 29.90 | 17.35 | 32.45 | 70.98 |
| 潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円) | 36.63 | — | — | — | — |
| 自己資本比率 (%) | 36.2 | 32.1 | 32.2 | 28.5 | 30.6 |
| 自己資本利益率 (%) | 10.2 | 8.0 | 4.7 | 8.4 | 16.6 |
| 株価収益率 (倍) | 25.0 | 28.8 | 52.7 | 30.6 | 13.1 |
| 配当性向 (%) | 25.9 | 32.8 | 58.2 | 32.0 | 15.1 |
| 従業員数 〔外、平均臨時雇用者数〕 (名) | 514 〔1,027〕 | 583 〔943〕 | 589 〔982〕 | 618 〔1,048〕 | 654 〔1,070〕 |
| 株主総利回り (比較指標：JASDAQ INDEX) (%) | 123.4 (115.6) | 117.5 (114.3) | 126.1 (138.6) | 137.9 (183.9) | 131.0 (159.0) |
| 最高株価 (円) | 950 | 950 | 949 | 1,078 | 1,034 |
| 最低株価 (円) | 740 | 788 | 825 | 861 | 861 |

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 従業員数欄の〔外書〕は、臨時従業員の年間平均雇用人員（1日8時間換算）であります。

3 第30期から第33期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4 最高株価及び最低株価は、東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）におけるものであります。

5 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第33期の期首から適用しており、第32期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

2 【沿革】

| 年月 | 概要 |
|----------|---|
| 1987年1月 | 大阪府にて1982年7月に創業した個人経営の学習塾である開成教育セミナーを法人化 （株）成学社を設立 |
| 1990年12月 | 「個別指導学院フリーステップ」として個別形態の進路指導、学習指導を開始 |
| 1997年7月 | 「フリーステップ代ゼミサテライン予備校」（現「開成教育グループ代ゼミサテライン予備校」）として衛星授業による学習指導を開始 |
| 1997年8月 | 兵庫県での教室展開を開始 |
| 1999年3月 | 滋賀県での教室展開を開始 |
| 2001年10月 | 個別指導学院フリーステップ フランチャイズ事業を開始 |
| 2002年7月 | 京都府での教室展開を開始 |
| 2002年12月 | 「開成ハイスクール」として高校生向けの進路指導、学習指導を開始 |
| 2003年5月 | 全額出資子会社（有）アドユニット（現（株）アプリス）設立 |
| 2003年6月 | 飲食事業を開始 |
| 2004年7月 | 不動産賃貸事業を開始 |
| 2005年9月 | 奈良県での教室展開を開始 |
| 2005年10月 | 飲食事業を全額出資子会社（株）アプリスに移管 |
| 2008年3月 | （株）ファイブランズより学習塾を譲受、「エール進学教室」を開校 |
| 2008年8月 | ジャスダック証券取引所（現東京証券取引所 JASDAQ（スタンダード））へ株式を上場 |
| 2009年3月 | （株）進学教育研究所より学習塾「京大セミナー」を譲受 |
| 2009年12月 | 兵庫県東播磨地区で個別指導形態の学習塾を展開する（株）個夢の全株式を取得し連結子会社化、 「個別教育システム アイナック」を開校 |
| 2010年2月 | 連結子会社（株）東京フェリックスを設立 |
| 2011年3月 | 東京都での教室展開を開始 |
| 2011年12月 | 英語を公用語とする外国人講師の派遣事業並びに英会話教室「I V Y」を運営する （株）アイビーを連結子会社化 |
| 2013年10月 | 当社を存続会社として（株）東京フェリックスを吸収合併 （株）アプリスを存続会社として（株）アイビーを吸収合併 |
| 2014年3月 | 小学生の滞在型アフタースクール「かいせい こどもスクール」を開始 |
| 2015年3月 | 徳島県での教室展開を開始 |
| 2015年4月 | 知育特化型保育園「かいせい保育園」（注）、小規模認可保育所「かいせいプチ保育園」を開始 |
| 2015年12月 | 「アイテラス保育園」を運営する（株）global bridge 大阪の全株式を取得し連結子会社化 |
| 2017年3月 | （株）アプリスがフィリピン共和国に連結子会社 APLIS INTERNATIONAL EDUCATION CORP. を設立、 同年7月に日本人を対象に英語教育を行う「Kaisei English Academy」を開始 |
| 2017年4月 | 認可保育所「かいせい保育園」を開始 外国人留学生を対象とする「開成アカデミー日本語学校」を開始 |
| 2017年10月 | 当社を存続会社として（株）個夢を吸収合併 |
| 2018年7月 | 埼玉県での教室展開を開始 |
| 2018年11月 | 大韓民国に連結子会社成学社コリア（株）を設立 |
| 2019年3月 | （株）アプリスが学童保育付き英会話スクール「IVY KIDS」を開始 |

（注）2017年4月より認可保育所として運営しております。

3 【事業の内容】

当社グループは、当社と関係会社5社（子会社4社及び親会社1社）で構成されており、教育関連事業を主とし、不動産賃貸事業、飲食事業に取り組んでおります。親会社である㈱ニューウェーブとは、当社との間に営業上の取引があります。

当社グループの事業における位置付け及びセグメントとの関連は、次のとおりであります。なお、セグメントと同一の区分であります。

(1) 教育関連事業

当社は、乳幼児から社会人までの教育および保育を基本とする教育企業として、「個別指導部門」、「クラス指導部門」、「保育部門」および「その他の指導部門」に分けて学習指導等を行い、大阪府を中心とした近畿圏並びに東京都、埼玉県にて学習塾等を展開しております。

個別指導部門では、「キミだけに全力指導」をモットーに、「個別指導学院フリーステップ」、「ハイグレード個人指導ソフィア」、「中学受験・大学受験専門個別指導 アルサポート」、「開成教育グループ代ゼミサテライン予備校」の塾名で教室を展開しております。なお、「個別指導学院フリーステップ」ではフランチャイズ事業を行っております。

クラス指導部門では、「もっと伸びる、信頼の指導」をモットーに、「開成教育セミナー」、「エール進学教室」の塾名で教室を展開しております。各ブランドには高校受験に特化した「実力練成コース」、中学受験に特化した「開成ベガ」、大阪市の中高一貫校（公立）の受験に特化した「大阪市立中高一貫コース」、現役高校生を対象とした「開成ハイスクール」のコースを設け、学力別クラス編成に基づいた指導を行っております。

保育部門では、認可保育所「かいせい保育園」、小規模認可保育所「かいせいプチ保育園」および「アイテラス保育園」を運営しております。

その他の指導部門では、小学生の滞在型アフタースクールである「かいせい こどもスクール」、外国人留学生に日本語教育を行う「開成アカデミー日本語学校」、フィリピン共和国セブ市において日本人を対象に英語教育を行う「Kaisei English Academy」、学童保育付き英会話スクール「IVY KIDS」のブランド運営の他、研修施設「淡輪ハウス」の運営、学校法人への講師派遣並びに英語を公用語とする外国人講師の派遣を行っております。

<各部門におけるブランドの展開状況>

| | ブランド名 | 内容 | 2019年3月31日現在 部門別都府県別教室数 | | |
|----------|------------------------|---|----------------------------|------------|-----------|
| | | | 大阪府 | その他近畿圏 | 関東圏 |
| 個別指導部門 | 個別指導学院フリーステップ | 小学生・中学生・高校生・高校卒業生を対象にした個別形態の進学指導・学習指導 | 107 (13) | 64 (17) | 26 (5) |
| | ハイグレード個人指導ソフィア | 塾生1人につき講師1人が指導を行う完全個別指導形態の進学指導・学習指導 | 3 | — | — |
| | 中学受験・大学受験専門個別指導アルサポート | 首都圏で展開する塾生1人につき講師1人が指導を行う完全個別指導形態の進学指導・学習指導 | — | — | 2 |
| | 開成教育グループ代ゼミサテライン予備校 | 代々木ゼミナールと提携し、高校生及び高校卒業生を対象に通信衛星を通じた講座を開講 | 109 | 59 | 25 |
| クラス指導部門 | 開成教育セミナー | 小学生・中学生・高校生を対象にしたクラス指導形態の進学指導・学習指導 | 71 | 25 | 2 |
| | エール進学教室 | 小学生・中学生・高校生を対象にしたクラス指導形態の進学指導・学習指導 | 2 | — | — |
| 保育部門 | かいせい保育園 | 0歳から5歳の子どもの対象にした定員50名以上で運営する認可保育所 | 6 | — | — |
| | かいせいプチ保育園 | 0歳から2歳の子どもの対象にした定員19名以下で運営する小規模認可保育所 | 8 | — | — |
| | アイテラス保育園 | 兵庫県神戸市で運営する0歳から2歳の子どもの対象にした小規模認可保育所 | — | 1 | — |
| その他の指導部門 | かいせい こどもスクール | 小学生を対象にした放課後や長期休暇中における保育活動 | 1 | — | — |
| | 開成アカデミー日本語学校 | 外国人留学生を対象にした日本語教育 | 1 | — | — |
| | IVY KIDS | 年少から小学生を対象にした学童保育付き英会話スクール | 1 | — | — |
| | Kaisei English Academy | フィリピン共和国セブ市にて日本人を対象にした英語教育 | — | — | — |

(注) 1 ()内は外教でフランチャイズの教室数であります。

2 各府県における直営教室の拠点数は大阪府156教室、その他近畿圏80教室、関東圏28教室、海外1教室であります。

(主な関係会社) 当社、㈱global bridge 大阪及びAPLIS INTERNATIONAL EDUCATION CORP.

(2) 不動産賃貸事業

不動産を効率的に活用するため、所有不動産の一部を賃貸しております。

(主な関係会社) 当社及び㈱アプリス

(3) 飲食事業

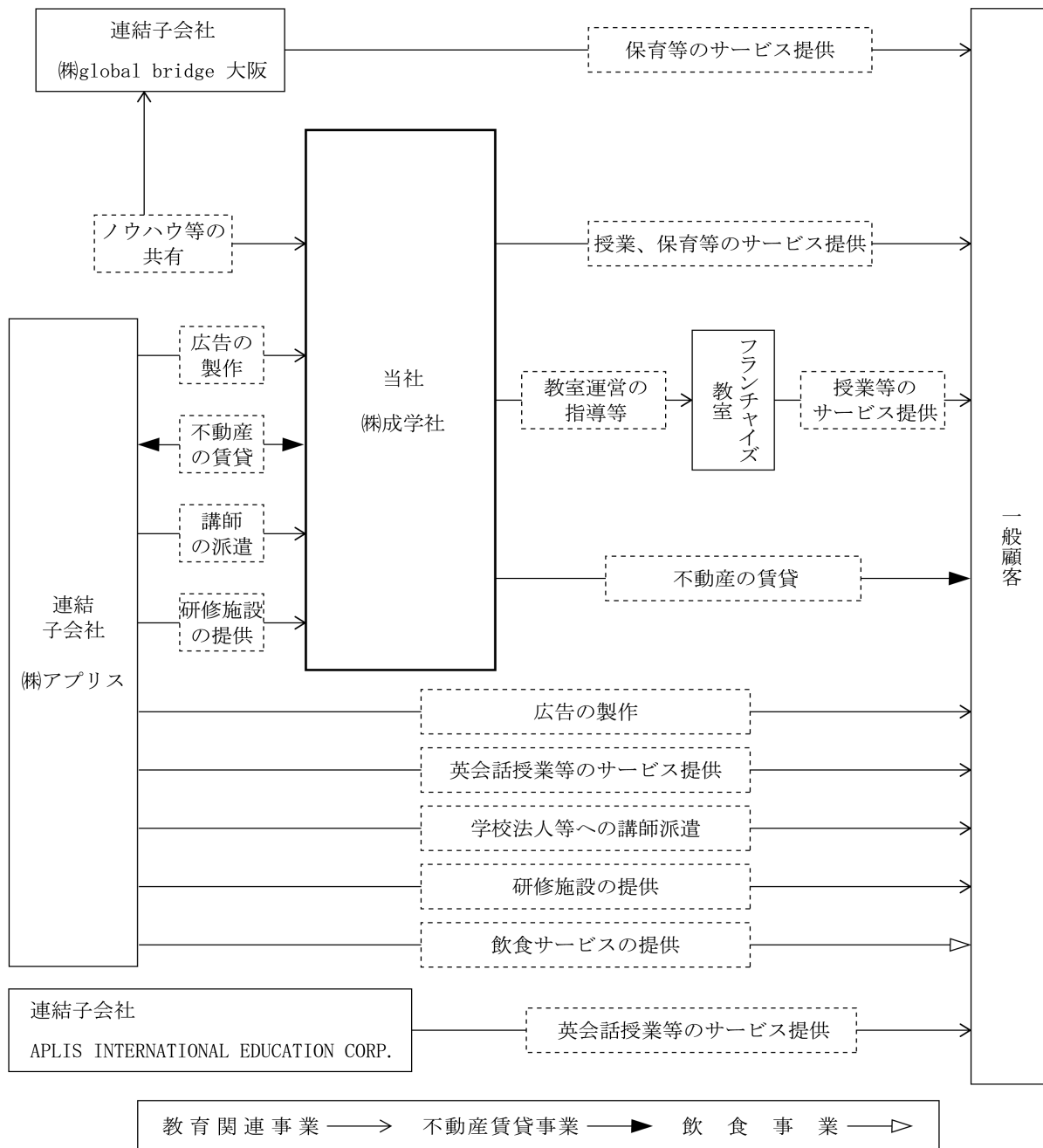
当社連結子会社㈱アプリスにおいて、大阪市にて2店舗を運営しております。

(主な関係会社) ㈱アプリス

事業系統図

事業の系統図は、次のとおりであります。

なお、2018年11月に成学社コリア㈱を設立しておりますが、事業を開始していないため、事業系統図には含めておりません。



4 【関係会社の状況】

親会社は、次のとおりであります。

| 名称 | 住所 | 資本金 (千円) | 主要な事業 の内容 | 議決権の 被所有割合 (%) | 関係内容 |
|------------|--------|-------------|--------------|-------------------------|---|
| (株)ニューウェーブ | 大阪府吹田市 | 10,000 | 不動産賃貸事業 | 21.2 [29.3] (注) 2 | 当社と、不動産の賃貸借契約を締結しております。 役員の兼任は1名であります。 |

(注) 1 有価証券届出書又は有価証券報告書を提出していません。

2 「議決権の被所有割合」欄の[外書]は、緊密な者の所有割合であります。

連結子会社は、次のとおりであります。

| 名称 | 住所 | 資本金 (千円) | 主要な事業 の内容 | 議決権の 所有割合 (%) | 関係内容 |
|---|-----------------|---------------------------|---------------------------|---------------------|--|
| (株)アプリス (注) 2 | 大阪市北区 | 32,500 | 教育関連事業 不動産賃貸事業 飲食事業 | 100.0 | 当社は、銀行借入の債務保証及び担保提供を行っております。また、不動産の賃貸借契約を締結しております。 役員の兼任は4名であります。 |
| (株)global bridge 大阪 | 大阪市北区 | 10,000 | 教育関連事業 | 100.0 | 役員の兼任は4名であります。 |
| APLIS INTERNATIONAL EDUCATION CORP. (注) 4 | フィリピン共 和国セブ市 | 1,200 千フィ リピン ペソ | 教育関連事業 | 100.0 (100.0) | — |
| 成学社コリア(株) (注) 5 | 大韓民国ソウ ル特別市 | 100,000 千ウォ ン | 教育関連事業 | 100.0 | 役員の兼任は2名であります。 |

(注) 1 「主要な事業の内容」欄には、セグメントの名称を記載しております。

2 特定子会社に該当しております。

3 有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。

4 議決権の所有割合の()内は、間接所有割合で内数であります。

5 成学社コリア(株)は2018年11月1日に設立しております。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2019年3月31日現在

| セグメントの名称 | 従業員数(名) |
|----------|----------------|
| 教育関連事業 | 662 [1,072] |
| 不動産賃貸事業 | — [—] |
| 飲食事業 | 5 [13] |
| 全社(共通) | 35 [9] |
| 合計 | 702 [1,094] |

- (注) 1 従業員数は就業人員であります。
 2 従業員数欄の[外書]は、臨時従業員の年間平均雇用人員(1日8時間換算)であります。
 3 臨時従業員には契約社員、非常勤講師、パートタイム従業員の従業員を含み、派遣社員を除いております。
 4 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属している従業員であります。
 5 不動産賃貸事業は管理部門の従業員が兼務で運営、管理を行っており、専任の従業員はおりません。

(2) 提出会社の状況

2019年3月31日現在

| 従業員数(名) | 平均年齢(歳) | 平均勤続年数(年) | 平均年間給与(円) |
|----------------|---------|-----------|-----------|
| 654 [1,070] | 37.10 | 6.98 | 4,260,325 |

| セグメントの名称 | 従業員数(名) |
|----------|----------------|
| 教育関連事業 | 619 [1,061] |
| 不動産賃貸事業 | — [—] |
| 全社(共通) | 35 [9] |
| 合計 | 654 [1,070] |

- (注) 1 従業員数は就業人員であります。
 2 従業員数欄の[外書]は、臨時従業員の年間平均雇用人員(1日8時間換算)であります。
 3 臨時従業員には契約社員、非常勤講師、パートタイム従業員の従業員を含み、派遣社員を除いております。
 4 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
 5 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属している従業員であります。
 6 不動産賃貸事業は管理部門の従業員が兼務で運営、管理を行っており、専任の従業員はおりません。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は良好であり、特記すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

(1) 経営方針・経営戦略等

当社は、「乳幼児から社会人までの教育および保育を基本とする教育企業」を事業ドメインとして事業展開を行ってまいります。

[基本ビジョン]

私たちは人の成長を育む事業を通じて日本を代表する企業を目指します。

[経営理念]

私たちは、創造的で質の高い教育、保育、文化事業を通じて次世代の健全な成長と学びの支援を行い、世界で活躍できる人材の育成と豊かで平和な社会づくりに貢献します。

当社グループでは、経営環境の変化に対応し多様なニーズに応えるため、教育サービスの向上、ブランド競争力の強化を図っております。主要事業である学習塾では、個別指導形態とクラス指導形態の両指導形態の学習塾を運営し教育ニーズに応えるとともに、小学生から高校生まで幅広い学齢層を対象に事業を行っております。加えて、学習塾で培ったノウハウを活かし、小学生の滞在型アフタースクール「かいせい こどもスクール」、外国人留学生に日本語教育を行う「開成アカデミー日本語学校」、日本人を対象に英語教育を行う「Kaisei English Academy」の運営等、幅広い教育分野で事業展開を行っております。また、待機児童の解消という社会的要請に応えるべく、「かいせい保育園」をはじめとした保育分野でも積極的に事業展開しております。その他、業務提携、M&A等による業界再編が進む学習塾業界において、当社グループの教育理念と一致する同業他社と様々な形で連携し、事業拡大を図ってまいります。

(2) 経営環境及び対処すべき課題

当社グループを取り巻く環境は、少子化の長期的な影響、景況感の不透明さにより大変厳しい状況が続くものと予想されます。また、従来の教育サービスに加え、ICTを活用した教育サービス、保育園、学童保育等の保育サービスへの需要の高まりを受け、他業界からの参入も増加しております。

こうした中、当社グループでは、以下の施策に取り組み、事業の拡大と収益性の向上を図ることが重要な課題となっております。

- ・教務力を活かした学習指導・進路指導による、難関校合格実績の着実な積み重ね
- ・ドミナント展開によるブランド力の向上、集客力の強化
- ・フランチャイズ展開の強化等による未開校地域への進出
- ・保育所の運営、日本語学校の運営、講師派遣等、学習塾に限らない教育分野での事業展開

2 【事業等のリスク】

当社グループの経営成績及び財務状況等に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

(1) 社会的環境について

① 学齢人口の減少、待機児童の減少

当社グループの属する学習塾業界は、少子化の問題に直面しております。少子化は、塾生となりうる児童の絶対数の減少という直接的な影響に留まらず、一部の学校を除いた入学試験の平易化がおり、入塾動機の希薄化・通塾率の低下に繋がる可能性があります。

また、保育業界においては、国が目指す「待機児童ゼロ」の方針の下、株式会社等の様々な運営主体による認可保育所の新規参入を促すとしており市場規模の拡大が見込まれるものの、保育所の増加により待機児童が減少する可能性があります。

今後、出生率の低下等により予想以上に少子化が進行した場合、待機児童が減少し保育施設の需要が衰退した場合は、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

② 近畿圏の人口・経済動向について

当社グループは、大阪府を中心とした近畿圏に学習塾を展開しております。2019年3月末において、直営教室を大阪府156教室、滋賀県28教室、兵庫県30教室、京都府19教室、奈良県3教室、東京都26教室、埼玉県2教室、海外1教室を展開しており、特に、大阪府における教室数は当社グループの教室数の58.9%を占めております。したがって、大阪府ないしは近畿圏の人口動向及び経済動向によっては、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

③ 教育制度等の変更について

学習指導要領の改訂や入試制度の変更など行政による教育制度の変更も度々行われております。当社グループでは、これらの教育制度の変更に対応して学習指導並びに進路指導を行っております。

しかしながら、これらの制度変更により早期の対応が行えなかった場合は、塾生数の減少を招き、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

④ 競合に関する影響について

当社グループが主要なターゲットとしている高校受験に向けた学習塾には多くの競合先があります。当社グループでは、難関公立高校への受験合格者数を増加させ、多様化するニーズに対応することで競合先との差別化を図り、塾生数の増加に努めております。

また、保育業界においては、深刻な待機児童問題を解消すべく、株式会社等の様々な運営主体による認可保育所への新規参入が拡大している状況にあり、競合先は増加する傾向にあります。当社グループでは、よりニーズの高い地域に開園し園児の確保に努めております。

しかしながら、合格実績が低下した場合もしくは競合先の合格実績が相対的に上昇した場合、あるいはニーズに合致した教育及び保育サービスが提供できなかった場合には、入塾生及び通塾生の減少、園児の減少等により、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

⑤ 災害・感染症の発生について

当社グループが事業展開している地域において、大規模な地震等の災害の発生や感染症が発生した場合、当社グループの一部又は全部の業務遂行が困難となる可能性があります。

当社グループでは、有事に備えての体制整備に努めておりますが、対応が不十分な場合には当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 事業展開について

① 人材の確保と教育及び保育

当社グループでは、正社員又は契約社員が教員として学習指導及び進路指導を行うとともに、優秀な大学生等を講師として採用し、教務にあっております。また、保育施設では、保育士の資格保有者が保育サービスを提供しております。当社グループにおいて、人材は重要な経営資源であり、教員、講師及び保育士の安定的確保と内部育成は、提供する教育及び保育の質に直結するものであります。当社グループでは要員計画に沿った適切な人材を確保するために新卒採用及び中途採用を実施しているほか、多数の臨時講師を確保するための採用活動も実施しております。また、様々な研修を実施し従業員教育に努めることにより、人材の早期育成を図り、能力を公正に評価する人事評価制度や褒賞制度により社内の活性化を図っております。

しかしながら、今後、採用環境の急激な変化等により人材の確保や育成が計画通りに行えない場合や、人材が大量に退職した場合には、新規教室開校計画の遂行に支障が生じる可能性があるとともに、提供する教育及び保育の質の低下から塾生等のニーズを満たすことが困難になること等により、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

② 業績の季節変動について

当社グループは月々の通常授業の他に、春期講習会、夏期特別授業及び夏期合宿、冬期特別授業を行っております。そのため、講習会及び特別授業の実施月は通常授業のみを実施する月に比べ、売上高は高くなっております。また、塾生数に関しましては、期首より月を追うほどに増加し、11月から12月にかけてピークを迎え、卒業を迎える2月から3月にかけて最も塾生数が少なくなる傾向にあります。したがって、講習会・特別授業を実施しない第1四半期（4月～6月）の収益性が低くなる傾向にある一方、第2四半期（7月～9月）・第3四半期（10月～12月）は収益性が高くなる傾向にあります。

③ 塾生の安全管理について

当社グループでは、安全な学習環境の提供に努めております。自家用車による送迎を行いやすい立地を教室展開の基本方針とし、一部の教室にスクールバスを導入、安全管理員を配置し、塾生の出迎えや周辺の監視を行っております。これらに関する費用が増加した場合、何らかの事情により当社グループの管理責任が問われる事態が発生し当社グループの評価の低下に繋がった場合は、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

④ 個人情報の取扱

当社グループでは、相当数の塾生等に関わる情報を有しております。社内規程の制定並びに従業員への啓蒙等により、情報漏洩の未然防止を徹底しており、これまで情報の流出等による事故は発生しておりません。

しかしながら、何らかの原因により当社グループの保有する情報が外部に流出した場合は、信用の低下により当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

⑤ フランチャイズ事業展開

当社グループでは、フランチャイズ契約を加盟者と締結し、教室運営指導、教室用備品及び広告宣伝物等の販売を行うフランチャイズ事業を展開しております。2019年3月末日現在、「個別指導学院フリーステップ」のフランチャイズ教室として35教室展開しております。フランチャイズ教室は、当社グループと同様のカリキュラム及び教材を使用し、直営教室と同水準の教育サービスを提供しております。

このように当社グループでは、フランチャイズ教室の品質管理に努めておりますが、当社の指導の及ばない範囲で、フランチャイズ加盟者の契約違反等が発生する場合があります。このような事態が生じた場合は、当社グループのブランド名に影響を及ぼし、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 教室展開について

① 教室開校

当社グループでは、積極的に新規教室を開校するとともに、事業譲受を行っております。新規開校及び事業譲受にあたっては、立地条件及び塾生の通塾安全性の確保等の社内における開校方針に従って物件選定を行っております。

しかしながら、希望する物件の確保が計画通りに進まない場合には、開校計画が変更になる可能性があり、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

② 差入保証金及び建設協力金について

当社グループでは、賃借による出店（教室・店舗）を基本としております。このため、賃貸借契約締結に際し、賃貸人に対して保証金等を差入れるケースがほとんどであります。

2019年3月期末における差入保証金の残高は917,948千円であり、連結総資産の10.4%を占めております。当社グループでは、賃貸人の信用調査を実施することにより差入保証金を保全するとともに、賃貸借契約解除後は未収入金として回収可能性を勘案し適切に貸倒引当金を計上しておりますが、賃貸人の経営破綻等によって貸倒損失が発生した場合、事業活動及び将来の成長が阻害され、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

また、新たに建物を建設する場合、賃貸人に対して建設協力金を拠出する場合があります。建設協力金は、賃借料と相殺して返済を受けるものでありますが、何らかの事情により建設協力金の返済が受けられない事態が発生した場合、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

③ 固定資産の減損損失

当社グループでは、教室の新規開校等に伴い設備投資をしており、教室設備等の有形固定資産を有しております。また、当社グループは、事業譲受を行っており、のれんを計上しております。今後とも教室の新規開校等に伴う有形固定資産並びに事業譲受に伴うのれんを計上する方針であります。

当社グループでは、将来のキャッシュ・フローを生み出す資産に投資を行うとともに、当該資産への投資が将来的に回収できるかどうかを定期的に検討しております。当該資産が将来においてキャッシュ・フローを当初の想定よりも生み出さず、設備投資の金額を回収できない場合には、減損を認識することになります。有形固定資産の設備投資並びにのれんに対して減損損失を認識することになった場合、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 法的規制、子ども・子育て支援に関する国の方針等について

① 主な関連法令について

学習塾運営に関連する主な関連法令は、特定商取引に関する法律、不当景品類及び不当表示防止法、消費者契約法、著作権法、個人情報の保護に関する法律等があります。

当社グループでは、すべての従業員に法令等の遵守の重要性及び必要性について周知するとともに、その実践の徹底に努めております。また、当社グループに関連する規制法令のみならず、すべての一般法令等に関して厳格な遵守の下に事業を運営しております。

しかしながら、関連する法令等に基づいて損害賠償請求等に係る訴訟等を将来において提訴される可能性を否定することは出来ず、当該訴訟等の動向によっては、当社グループに関する評価の低下につながり、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

② 食品衛生法について

当社グループの保育施設では、食品衛生法に基づき、厳正な食材管理並びに衛生管理を実施し、各保育施設では、食中毒、賞味期限切れ食材の使用、異物混入等の事故を起こさないよう努力しております。

また、当社子会社㈱アプリスでは、飲食事業を展開しており、飲食店舗は食品衛生法に基づき店舗ごとに所轄の保健所より飲食店営業許可を取得しております。各店舗では、定期的に衛生チェックを行い、信頼できる取引先から食材の仕入を行っております。

しかしながら、保育施設において何らかの原因により食の安全に関する重大な問題の発生、店舗における飲食を理由とする食中毒や食品衛生に関するクレームの発生、社会全般にわたる一般的な衛生問題等が発生した場合、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

③ 子ども・子育て支援に関する国の方針について

子ども・子育て支援制度の整備は、国の政策課題の最重要項目の一つとなっており、株式会社等の様々な運営主体による認可保育所への新規参入が拡大している状況にあります。今後、国の方針が変わり、株式会社等による認可保育所の運営が認められなくなった場合には、当社グループにおける保育サービスの提供が困難となり、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

④ 保育施設の許認可について

当社の運営する「かいせい保育園」、「かいせいブチ保育園」および子会社の運営する「アイテラス保育園」は、保育所設置に関する許認可のもとに運営しております。認可保育所は、保育所ごとに許認可権限を持つ行政機関へ保育所設置の申請を行い、審査を経た上で許認可が付与されます。

今後、何らかの理由によりこれらの許認可が取り消された場合や営業停止となった場合には、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社及び連結子会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

① 財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度における我が国経済は、企業収益や雇用環境の改善等により景況感に明るい兆しがみえつつも、世界経済や貿易摩擦等の懸念により、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

当業界においては、先行き不透明な経済環境に加え、少子化による学齢人口の減少、教育ニーズの多様化により、業界内の競争は厳しさを増しております。また、従来の教育サービスに加え、ICTを活用した教育サービス、保育園、学童保育等の保育サービスへの需要の高まりを受け、異なる業界から当業界への参入も増加しております。

このような状況の下、当社グループは、事業ドメイン「乳幼児から社会人までの教育および保育を基本とする教育企業」の下、主力の学習塾ブランドである「個別指導学院フリーステップ」に加え、クラス指導の学習塾「開成教育セミナー」、認可保育所「かいせい保育園」、外国人留学生を対象とした「開成アカデミー日本語学校」等を運営し、幅広い教育および保育ニーズに応え、事業展開を行いました。

この結果、当連結会計年度の財政状態及び経営成績は以下のとおりとなりました。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を当連結会計年度の期首から適用しており、財政状態については、遡及処理後の前連結会計年度末の数値で比較・分析を行っております。

a. 財政状態

当連結会計年度末の資産合計は、前連結会計年度末から869,931千円（10.9%）増加し8,858,222千円、負債合計は、同534,943千円（9.5%）増加し6,188,744千円、純資産合計は、同334,987千円（14.3%）増加し2,669,478千円となりました。

b. 経営成績

当連結会計年度における売上高は11,890,709千円（前年同期比5.8%増）、営業利益は384,160千円（前年同期は営業利益20,550千円）、経常利益は679,748千円（前年同期比114.3%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は396,730千円（前年同期比288.2%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

教育関連事業

グループ在籍者数について

| 部門 | 2017年11月末 | 2018年11月末 | 増減率 |
|----------|-----------|-----------|--------|
| 個別指導部門 | 16,954人 | 17,530人 | +3.4% |
| クラス指導部門 | 8,279人 | 8,042人 | △2.9% |
| 保育部門 | 302人 | 489人 | +61.9% |
| その他の指導部門 | 77人 | 130人 | +68.8% |
| （閉鎖ブランド） | 125人 | — | — |
| 合計 | 25,737人 | 26,191人 | +1.8% |

（注1）当社グループにおいて例年ピークを迎える11月末時点の在籍者数を記載しております。

（注2）グループ在籍者数は、当社グループが運営する学習塾等に通う者に限り、フランチャイズ教室に通う者は含んでおりません。

個別指導部門は、ブランドの特長である「点数アップと大学受験に強いフリーステップ」を継続的にアピールし年間を通じて入塾者数の伸びに寄与しました。また、フリーステップ教室のほぼ全教室で代ゼミサテライン予備校の映像授業を受講できる体制を整えたことで、塾生数は増加いたしました。

クラス指導部門は、高いニーズが予想される大阪市立中高一貫校の学習指導に特化したコースを新設し、新たな顧客層を取り込みました。塾生数の減少が続く中、当該コースの設置により塾生数の減少率は改善いたしました。

保育部門は運営する保育所の増加、その他の指導部門は開校2年目を迎えた「開成アカデミー日本語学校」において、留学1年目、2年目の学生が在籍することとなり、それぞれ園児数、学生数は増加いたしました。

教室展開について

| 部門 | 前期末 | 増加 | 減少 | 当期末 |
|------------|-----|----|----|-----|
| 個別指導部門 | 203 | 8 | 4 | 207 |
| クラス指導部門 | 101 | 2 | 3 | 100 |
| 保育部門 | 11 | 4 | 0 | 15 |
| その他の指導部門 | 3 | 1 | 0 | 4 |
| 直営教場数 | 256 | 12 | 3 | 265 |
| フランチャイズ教室数 | 24 | 11 | 0 | 35 |

(注) 複数の部門を開講している教室があるため、各部門の合計と直営教場数は一致いたしません。

当社グループは、2018年7月、「個別指導学院フリーステップ」を埼玉県に初めて開校し、営業エリアを拡大いたしました。

直営教室は、新規開校した12教室（大阪府5、兵庫県2、京都府1、東京都2、埼玉県2）が増加し、閉鎖した1教室（京都府1）およびフランチャイズ化した2教室（兵庫県1、京都府1）が減少いたしました。これにより、期末における直営教室数は9教室増加し、265教室となりました。

フランチャイズ教室は、新規開校した9教室（大阪府4、京都府1、徳島県1、東京都2、埼玉県1）およびフランチャイズ化した2教室が増加し、期末におけるフランチャイズ教室数は35教室となりました。

損益について

売上面については、個別指導部門では「個別指導学院フリーステップ」における塾生数の伸び、フリーステップ教室のほぼ全教室で「代ゼミサテライン予備校」の受講を可能にしたことによる受講者数の増加およびフランチャイズ展開が堅調に推移したこと、保育部門では運営する保育園の増加、その他の指導部門では「開成アカデミー日本語学校」の在籍者数の増加がそれぞれ寄与したことで、売上高は11,741,141千円（前年同期比5.8%増）となりました。

損益面については、認可保育所開園のための先行投資の費用負担が少なくなったこと、広告媒体の絞込みにより広告宣伝費が減少したものの、教室数の増加による人件費及び家賃等の費用は増加したため、セグメント費用は増加いたしました。この費用の増加は、売上の伸びで吸収し、セグメント利益（営業利益）は429,421千円（前年同期比741.1%増）となりました。

不動産賃貸事業

入居するテナントが増加したことから、売上高は36,541千円（前年同期比3.7%増）となったものの、修繕費が増加したことから、セグメント利益（営業利益）は28,770千円（前年同期比9.4%減）となりました。

飲食事業

個人消費の伸び悩み、夏の天候不良等の影響により飲食店舗の運営には厳しい環境が続きました。運営体制の見直し、新メニューの導入等を行ったものの損益の改善には至らず、売上高は113,026千円（前年同期比0.8%減）、セグメント損失（営業損失）は15,616千円（前年同期はセグメント損失（営業損失）11,939千円）となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、1,319,467千円となり、前連結会計年度末に比べ、437,065千円増加いたしました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、817,287千円（前連結会計年度比460,527千円の収入増）となりました。これは主に税金等調整前当期純利益659,651千円、減価償却費344,814千円、未払消費税等の増加額111,340千円がそれぞれ計上されたものの、補助金収入269,632千円等があったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果支出した資金は、606,522千円（前連結会計年度比519,549千円の支出減）となりました。これは主に補助金の受取額338,298千円、保険解約による収入72,074千円、有形固定資産の取得による支出881,950千円等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果得られた資金は、228,746千円（前連結会計年度比444,293千円の収入減）となりました。これは主に長期借入れによる収入1,234,400千円、長期借入金の返済による支出574,573千円、短期借入金の純減少額357,000千円等によるものであります。

③ 生産、受注及び販売の実績

a. 生産実績

当社グループは塾生に対して学習指導を行うことを主たる業務としておりますので、該当事項はありません。

b. 仕入実績

当連結会計年度における仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

| セグメントの名称 | 仕入高(千円) | 前連結会計年度比(%) |
|----------|---------|-------------|
| 教育関連事業 | 663,490 | 115.3 |
| 不動産賃貸事業 | — | — |
| 飲食事業 | 44,811 | 105.8 |
| 合計 | 708,302 | 114.6 |

(注) 1 セグメント間取引については相殺消去しております。

2 金額は、仕入価格によっております。

3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

c. 受注実績

当社グループは塾生に対して学習指導を行うことを主たる業務としておりますので、該当事項はありません。

d. 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

| セグメントの名称 | 販売高(千円) | 前連結会計年度比(%) |
|----------|------------|-------------|
| 教育関連事業 | 11,741,141 | 105.8 |
| 不動産賃貸事業 | 36,541 | 103.7 |
| 飲食事業 | 113,026 | 99.2 |
| 合計 | 11,890,709 | 105.8 |

(注) 1 セグメント間取引については相殺消去しております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の販売総実績に対する割合については、相手先が塾生及び不特定多数の一般顧客へのものが全体の100分の90以上を占めており、当該割合が100分の10未満のため記載を省略しております。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

① 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して作成しております。この連結財務諸表の作成にあたって必要と思われる見積りは、合理的な基準に基づいて実施しております。

詳細につきましては、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 (連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)」に記載のとおりであります。

② 当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

当社グループの事業セグメントは、教育関連事業、不動産賃貸事業、飲食事業で構成しています。なかでも、教育関連事業は、当連結会計年度における連結売上高の98.7%を占める事業セグメントとなっております。

a. 経営成績の分析

(売上高)

当連結会計年度における売上高は、前連結会計年度より647,063千円(5.8%)増加し、11,890,709千円となりました。売上高の内訳の詳細については、「3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1) 経営成績等の状況の概要 ① 財政状態及び経営成績の状況」をご参照ください。

売上高の増加の主な要因は、塾生数の伸び、運営する認可保育所の増加により、それぞれ個別指導部門と保育部門が増収となったことによるものであります。

(売上原価)

当連結会計年度における売上原価は、前連結会計年度より265,497千円(2.8%)増加し、9,641,722千円となりました。これは主として教室数の増加に伴い給与等の人件費が前連結会計年度比189,675千円(3.3%)増の6,017,888千円、支払家賃が同47,375千円(3.2%)増の1,528,436千円、固定資産の増加に伴い減価償却費が前連結会計年度比36,068千円(14.4%)増の286,544千円となったことによるものであります。

(販売費及び一般管理費)

当連結会計年度における販売費及び一般管理費は、前連結会計年度より17,955千円(1.0%)増加し、1,864,825千円となりました。これは主として、ITインフラ整備に伴う保守料の増加により、支払手数料が前連結会計年度比25,384千円(24.4%)増の129,349千円となったものの、広告媒体の絞り込みにより広告宣伝費が前連結会計年度比13,061千円(2.3%)減の551,471千円となったことによるものであります。

(営業外収益、営業外費用)

当連結会計年度における営業外収益は、前連結会計年度より5,629千円(1.7%)減少し、322,507千円となりました。これは主として認可保育所に対する整備費補助金等の給付に伴い補助金収入269,632千円を計上したことによるものであります。

また、営業外費用は、前連結会計年度より4,642千円(14.7%)減少し、26,919千円となりました。これは主として前連結会計年度に為替差損6,389千円を計上したことによるものであります。

(特別利益、特別損失)

当連結会計年度における特別利益は、8,838千円となりました。これは主として事業譲渡益7,460千円を計上したことによるものであります。

当連結会計年度における特別損失は、28,935千円となりました。これは主として減損損失28,192千円を計上したことによるものであります。

b. 財政状態の分析

(流動資産)

流動資産は、前連結会計年度末から531,129千円(19.5%)増加し、3,247,951千円となりました。これは主として現金及び預金が前連結会計年度に比べ486,077千円、営業未収入金が同18,910千円、商品が同14,023千円増加したことによります。

(固定資産)

固定資産は、前連結会計年度末から338,801千円(6.4%)増加し、5,610,271千円となりました。これは主として有形固定資産の建物及び構築物が前連結会計年度に比べ483,711千円増加し、投資その他の資産の繰延税金資産が前連結会計年度に比べ47,248千円、投資その他の資産のその他に含まれる保険積立金が同43,210千円、無形固定資産が同21,356千円減少したことによります。

(流動負債)

流動負債は、前連結会計年度末から86,986千円(2.4%)減少し、3,606,113千円となりました。これは主として未払法人税等が前連結会計年度に比べ154,698千円、1年内返済予定の長期借入金が同98,015千円、前受金が同50,429千円増加し、短期借入金が前連結会計年度に比べ357,000千円、未払金が同116,982千円減少したことによります。

(固定負債)

固定負債は、前連結会計年度末から621,930千円(31.7%)増加し、2,582,631千円となりました。これは主として長期借入金が前連結会計年度に比べ561,810千円、資産除去債務が同42,166千円、繰延税金負債が同30,401千円増加したことによります。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末から334,987千円(14.3%)増加し、2,669,478千円となりました。これは主として利益剰余金が前連結会計年度に比べ338,433千円増加したことによります。

c. キャッシュ・フローの分析

キャッシュ・フローの分析については、「第2 事業の状況 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1) 経営成績等の状況の概要 ② キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

当社グループの経営成績等に重要な影響を与える要因については、「第2 事業の状況 2 事業等のリスク」に記載のとおりであります。

当社グループの資本の財源及び資金の流動性については次のとおりであります。

当社グループの資金需要は、教室運営等に係る運転資金、教室開校等に係る設備投資資金であります。短期運転資金の調達には自己資金及び金融機関からの短期借入を基本とし、長期運転資金及び設備投資資金の調達は金融機関からの長期借入を基本としております。当連結会計年度末における有利子負債(リース債務を含む)の残高は3,248,605千円、現金及び現金同等物の残高は1,319,467千円となっております。

各セグメントの経営成績等の状況に関する分析・検討内容は、「第2 事業の状況 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 ① 財政状態及び経営成績の状況」に記載のとおりであります。

4 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

5 【研究開発活動】

該当事項はありません。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当社グループは、塾生ならびに保護者の多様なニーズに応え、快適な教育環境の創造と充実のために設備投資を継続的に実施しております。

当連結会計年度の設備投資等（差入保証金を含む）の総額は、914,766千円であり、セグメントごとの設備投資について示すと、次のとおりであります。

（1）教育関連事業

当連結会計年度は総額907,340千円の投資を実施しました。

主な内容は、保育所の開園、教室の新設、移転及び改修に伴う内装設備及び差入保証金の支払いであります。

また、重要な設備の除却または売却はありません。

（2）不動産賃貸事業

当連結会計年度は総額407千円の投資を実施しました。

主な内容は、自社ビル内装設備の一部改修の支払いであります。

また、重要な設備の除却または売却はありません。

（3）飲食事業

当連結会計年度は総額227千円の投資を実施しました。

主な内容は、内装設備の取得の支払いであります。

また、重要な設備の除却または売却はありません。

（4）全社共通

当連結会計年度は総額6,792千円の投資を実施しました。

主な内容は、ITインフラ整備及びシステム開発の支払いであります。

また、重要な設備の除却または売却はありません。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

本部機能を有する事業所ならびに主要教室を記載し、その他事業所は合計で記載しております。

2019年3月31日現在

| 事業所名 (所在地) | セグメントの 名称 | 設備の 内容 | 帳簿価額(千円) | | | | | | 従業員数 (名) |
|-----------------------|---------------------|----------------------------|-------------|-------------------|-----------------------------------|-----------|-----------|-----------|----------------|
| | | | 建物及び 構築物 | 工具、器 具及び 備品 | 土地 (面積㎡) | リース 資産 | 差入 保証金 | 合計 | |
| 本社 (大阪市北区) | 教育関連事業及び 不動産賃貸事業 | 統括業務施設 及び賃貸不動 産 | 161,422 | 22,722 | 471,183 (791.96) | 28,439 | 3,233 | 687,001 | 141 [74] |
| 旭丘教室 (大阪府豊中市) | 教育関連事業 | 教室 | 39,389 | 0 | 25,328 (194.23) | — | 40 | 64,758 | 2 [8] |
| 西田辺教室 (大阪市阿倍野区) | 教育関連事業 | 教室 | 24,305 | 1,655 | — | — | 22,061 | 48,021 | 6 [12] |
| 北巽教室 (大阪市生野区) | 教育関連事業 | 教室 | 321 | 1,334 | — | — | 8,510 | 10,165 | 3 [11] |
| 東岸和田本部教室 (大阪府岸和田市) | 教育関連事業 | 教室 | 13,140 | 1,393 | — | — | 3,600 | 18,133 | 3 [6] |
| 高槻教室 (大阪府高槻市) | 教育関連事業 | 教室 | 2,457 | 633 | — | — | 7,150 | 10,241 | 3 [8] |
| 天王寺教室 (大阪市天王寺区) | 教育関連事業 | 教室 | 2,462 | 350 | — | — | 2,400 | 5,212 | 1 [5] |
| 天王寺教室 (大阪市阿倍野区) | 教育関連事業 | 教室 | 1,288 | 261 | — | — | 3,950 | 5,499 | 2 [3] |
| 堺駅前教室 (大阪府堺市) | 教育関連事業 | 教室 | 6,792 | 469 | — | — | 2,574 | 9,836 | 2 [3] |
| 草津駅前教室 (滋賀県草津市) | 教育関連事業 | 教室 | 1,753 | 2,464 | — | — | 7,260 | 11,477 | 4 [8] |
| 南草津駅前教室 (滋賀県草津市) | 教育関連事業 | 教室 | 4,952 | 758 | — | — | 20,981 | 26,691 | 2 [5] |
| 西宮北口教室 (兵庫県西宮市) | 教育関連事業 | 教室 | 1,946 | 138 | — | — | 2,425 | 4,510 | 1 [3] |
| 保谷教室 (東京都練馬区) | 教育関連事業 | 教室 | 5,079 | 363 | — | — | 3,360 | 8,802 | 3 [6] |
| 日暮里教室 (東京都荒川区) | 教育関連事業 | 教室 | 3,511 | 1,077 | — | — | 2,570 | 7,159 | 1 [1] |
| その他290箇所 | 教育関連事業及び 不動産賃貸事業 | 教室、保育所、 保養施設及び 賃貸不動産 | 2,232,680 | 177,978 | 439,218 (1,489.36) [852.44] | 56,097 | 828,725 | 3,734,700 | 480 [917] |
| 合計 | — | — | 2,501,504 | 211,599 | 935,730 | 84,537 | 918,839 | 4,652,211 | 654 [1,070] |

(注) 1 金額には消費税等は含まれておりません。

2 現在休止中の設備はありません。

3 土地の一部を賃借しております。年間賃借料は12,915千円であります。

なお、賃借している土地の面積は[]で外書きしております。

4 従業員数欄の「外書」は、臨時従業員の年間平均雇用人員（1日8時間換算）であります。

5 上記の他、連結会社以外から賃借している主要な設備の内容は、以下のとおりであります。

| 事業所名 | セグメントの名称 | 設備の内容 | 賃借物件 (面積㎡) | 年間支払賃借料 (千円) |
|--------|----------|-------|---------------|-----------------|
| 西田辺教室 | 教育関連事業 | 教室 | 1,011.13 | 32,708 |
| 松原駅前教室 | 教育関連事業 | 教室 | 618.06 | 22,701 |
| 草津駅前教室 | 教育関連事業 | 教室 | 586.10 | 18,881 |

(2) 国内子会社

2019年3月31日現在

| 会社名 | 事業所名 (所在地) | セグメントの 名称 | 設備の内容 | 帳簿価額(千円) | | | | | | 従業員数 (名) |
|----------------------|--|--------------|--------|-------------|-------------------|----------------------|-----------|-----------|---------|-------------|
| | | | | 建物及び 構築物 | 工具、器 具及び備 品 | 土地 (面積㎡) | リース 資産 | 差入 保証金 | 合計 | |
| ㈱アプリス | 本社 (大阪府大阪市北区) | 教育関連事業 | 統括業務施設 | — | 459 | — | — | 1,832 | 2,292 | 17 [5] |
| | 淡輪ハウス (大阪府泉南郡) | 教育関連事業 | 研修施設 | 109,782 | 640 | 12,107 (2,080.25) | — | — | 122,531 | 2 [1] |
| | 開成豊中ビル (大阪府豊中市) | 不動産賃貸事業 | 賃貸不動産 | 15,009 | — | 62,000 (250.85) | — | — | 77,009 | — [—] |
| | 茶屋町炉端 樂兵衛 (大阪府大阪市北区) 他1店舗 | 飲食事業 | 飲食店舗 | 10,713 | 1,091 | — | — | 8,366 | 20,171 | 5 [13] |
| | IVYKIDS (大阪府茨木市) | 教育関連事業 | 教室 | 7,551 | — | — | — | — | 7,551 | 3 [—] |
| | 合計 | — | — | — | 143,057 | 2,191 | 74,107 | — | 10,199 | 229,555 |
| ㈱global bridge 大阪 | 新神戸アイテラス 保育園 (兵庫県神戸市中央区) 他1箇所 | 教育関連事業 | 保育所 | 197,023 | 4,447 | 97,933 (99.65) | — | 250 | 299,654 | 7 [3] |

- (注) 1 帳簿価額には、消費税等は含まれておりません。
2 現在休止中の設備はありません。
3 従業員数欄の「外書」は、臨時従業員の年間平均雇用人員(1日8時間換算)であります。
4 上記の他、連結会社以外から賃借している主要な設備の内容は、以下のとおりであります。

| 会社名 | 事業所名 | セグメントの名称 | 設備の内容 | 賃借物件 (面積㎡) | 年間支払賃借料 (千円) |
|----------------------|-------------|----------|-------|---------------|-----------------|
| ㈱global bridge 大阪 | 新神戸アイテラス保育園 | 教育関連事業 | 保育所 | 99.65 | 2,604 |

(3) 在外子会社

2019年3月31日現在

| 会社名 | 事業所名 (所在地) | セグメントの 名称 | 設備の内容 | 帳簿価額(千円) | | | | | | 従業員数 (名) |
|---|--|--------------|--------|-------------|-------------------|-------------|-----------|-----------|-------|-------------|
| | | | | 建物及び 構築物 | 工具、器 具及び備 品 | 土地 (面積㎡) | リース 資産 | 差入 保証金 | 合計 | |
| APLIS INTERNATIONAL EDUCATION CORP. | Kaisei English Academy (フィリピン共和国 セブ市) | 教育関連事業 | 英語学校 | — | — | — | — | 2,390 | 2,390 | 14 [2] |
| 成学社コリア㈱ | 本社 (大韓民国ソウル特 別市) | 教育関連事業 | 統括業務施設 | — | — | — | — | 318 | 318 | — [—] |

- (注) 1 帳簿価額には、消費税等は含まれておりません。
2 現在休止中の設備はありません。
3 従業員数欄の「外書」は、臨時従業員の年間平均雇用人員(1日8時間換算)であります。
4 上記の他、連結会社以外から賃借している主要な設備の内容は、以下のとおりであります。

| 会社名 | 事業所名 | セグメントの名称 | 設備の内容 | 賃借物件 (面積㎡) | 年間支払賃借料 (千円) |
|---|------------------------|----------|-------|---------------|-----------------|
| APLIS INTERNATIONAL EDUCATION CORP. | Kaisei English Academy | 教育関連事業 | 英語学校 | 839 | 9,228 |

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

2019年3月31日現在において、新たに確定した重要な設備の新設等の計画はありません。

(2) 重要な設備の除却等

2019年3月31日現在において、新たに確定した重要な設備の除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 15,360,000 |
| 計 | 15,360,000 |

② 【発行済株式】

| 種類 | 事業年度末現在 発行数(株) (2019年3月31日) | 提出日現在 発行数(株) (2019年6月26日) | 上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名 | 内容 |
|------|-----------------------------------|---------------------------------|------------------------------------|------------------|
| 普通株式 | 5,876,000 | 5,876,000 | 東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード) | 単元株式数は100株であります。 |
| 計 | 5,876,000 | 5,876,000 | — | — |

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

② 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

③ 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式 総数増減数 (株) | 発行済株式 総数残高 (株) | 資本金増減額 (千円) | 資本金残高 (千円) | 資本準備金 増減額 (千円) | 資本準備金 残高 (千円) |
|------------------------------|-----------------------|----------------------|----------------|---------------|----------------------|---------------------|
| 2014年4月1日～ 2015年3月31日 (注) | 12,000 | 5,876,000 | 1,500 | 235,108 | 1,500 | 175,108 |
| 2015年4月1日～ 2019年3月31日 | — | 5,876,000 | — | 235,108 | — | 175,108 |

(注) 新株予約権(ストック・オプション)の権利行使

(5) 【所有者別状況】

2019年3月31日現在

| 区分 | 株式の状況（1単元の株式数100株） | | | | | | | | 単元未満株式の状況（株） |
|-------------|--------------------|------|----------|--------|-------|------|--------|--------|--------------|
| | 政府及び地方公共団体 | 金融機関 | 金融商品取引業者 | その他の法人 | 外国法人等 | | 個人その他 | 計 | |
| | | | | | 個人以外 | 個人 | | | |
| 株主数(人) | — | 4 | 1 | 67 | 1 | 12 | 7,735 | 7,820 | — |
| 所有株式数(単元) | — | 640 | 1 | 22,398 | 37 | 12 | 35,667 | 58,755 | 500 |
| 所有株式数の割合(%) | — | 1.09 | 0.00 | 38.12 | 0.06 | 0.02 | 60.71 | 100.00 | — |

(注) 自己株式350,260株は、「個人その他」に3,502単元、「単元未満株式の状況」に60株含まれております。

(6) 【大株主の状況】

2019年3月31日現在

| 氏名又は名称 | 住所 | 所有株式数(株) | 発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%) |
|--------------|----------------------|-----------|-----------------------------------|
| 太田 明弘 | 大阪府吹田市 | 1,449,100 | 26.22 |
| 株式会社ニューウェーブ | 大阪府吹田市佐竹台3丁目12-11 | 1,176,000 | 21.28 |
| 株式会社ナガセ | 東京都武蔵野市吉祥寺南町1丁目29-2 | 400,000 | 7.23 |
| 成学社従業員持株会 | 大阪府大阪市北区中崎西三丁目1番2号 | 269,600 | 4.87 |
| 太田 貴美子 | 大阪府吹田市 | 174,000 | 3.14 |
| 株式会社さなる | 東京都新宿区西新宿3丁目2-8 | 159,000 | 2.87 |
| 学校法人高宮学園 | 東京都渋谷区代々木1丁目29-1 | 127,000 | 2.29 |
| 永井 博 | 大阪府豊中市 | 87,445 | 1.58 |
| 株式会社仙台進学プラザ | 宮城県仙台市若林区土樋104 | 59,200 | 1.07 |
| 有限会社日本作文指導協会 | 東京都文京区本郷1丁目30-16-404 | 58,600 | 1.06 |
| 計 | — | 3,959,945 | 71.66 |

(注) 上記のほか、当社所有の自己株式350,260株があります。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2019年3月31日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|--------------------------|----------|----|
| 無議決権株式 | — | — | — |
| 議決権制限株式(自己株式等) | — | — | — |
| 議決権制限株式(その他) | — | — | — |
| 完全議決権株式(自己株式等) | (自己保有株式) 普通株式 350,200 | — | — |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 5,525,300 | 55,253 | — |
| 単元未満株式 | 普通株式 500 | — | — |
| 発行済株式総数 | 5,876,000 | — | — |
| 総株主の議決権 | — | 55,253 | — |

② 【自己株式等】

2019年3月31日現在

| 所有者の氏名又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義 所有株式数 (株) | 他人名義 所有株式数 (株) | 所有株式数 の合計 (株) | 発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%) |
|----------------------|------------------------|----------------------|----------------------|---------------------|------------------------------------|
| (自己保有株式) 株式会社 成学社 | 大阪府大阪市北区中崎西 三丁目1番2号 | 350,200 | — | 350,200 | 5.95 |
| 計 | — | 350,200 | — | 350,200 | 5.95 |

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 普通株式

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

| 区分 | 当事業年度 | | 当期間 | |
|---------------------------------|------------|-----------------|------------|-----------------|
| | 株式数 (株) | 処分価額の総額 (千円) | 株式数 (株) | 処分価額の総額 (千円) |
| 引き受ける者の募集を行った 取得自己株式 | — | — | — | — |
| 消却の処分を行った取得自己株式 | — | — | — | — |
| 合併、株式交換、会社分割に係る 移転を行った取得自己株式 | — | — | — | — |
| その他 (—) | — | — | — | — |
| 保有自己株式数 | 350,260 | — | 350,260 | — |

(注) 当期間における保有自己株式には、2019年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は、含まれておりません。

3 【配当政策】

当社は、長期にわたる安定基盤の確立に努めるとともに、継続的かつ安定的な配当の実施を基本方針としております。

当社は、中間配当と期末配当の年2回剰余金の配当を行うことを基本方針としております。これらの剰余金の配当決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当事業年度の配当については、上記方針に基づき、1株当たり10.70円（うち中間配当5.35円）を実施することを決定しました。この結果、配当性向は15.1%となりました。

内部留保した資金については、将来における株主利益の拡大並びに経営の一層の充実に備え、事業拡大のための設備投資に有効に活用していく所存であります。

なお、当社は会社法第454条第5項の規定に基づき、取締役会の決議によって中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は以下のとおりであります。

| 決議年月日 | 配当金の総額(千円) | 1株当たり配当額(円) |
|----------------------|------------|-------------|
| 2018年11月13日 取締役会 | 29,562 | 5.35 |
| 2019年6月26日 定時株主総会 | 29,562 | 5.35 |

4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

①コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社では、コーポレート・ガバナンスをより一層充実させることを重要な経営課題のひとつと捉え、経営の執行と監督の分離、法規等の遵守、企業倫理の確立を進めております。これにより、経営の透明性を高め、適正な経営の実現を目指しております。

②企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

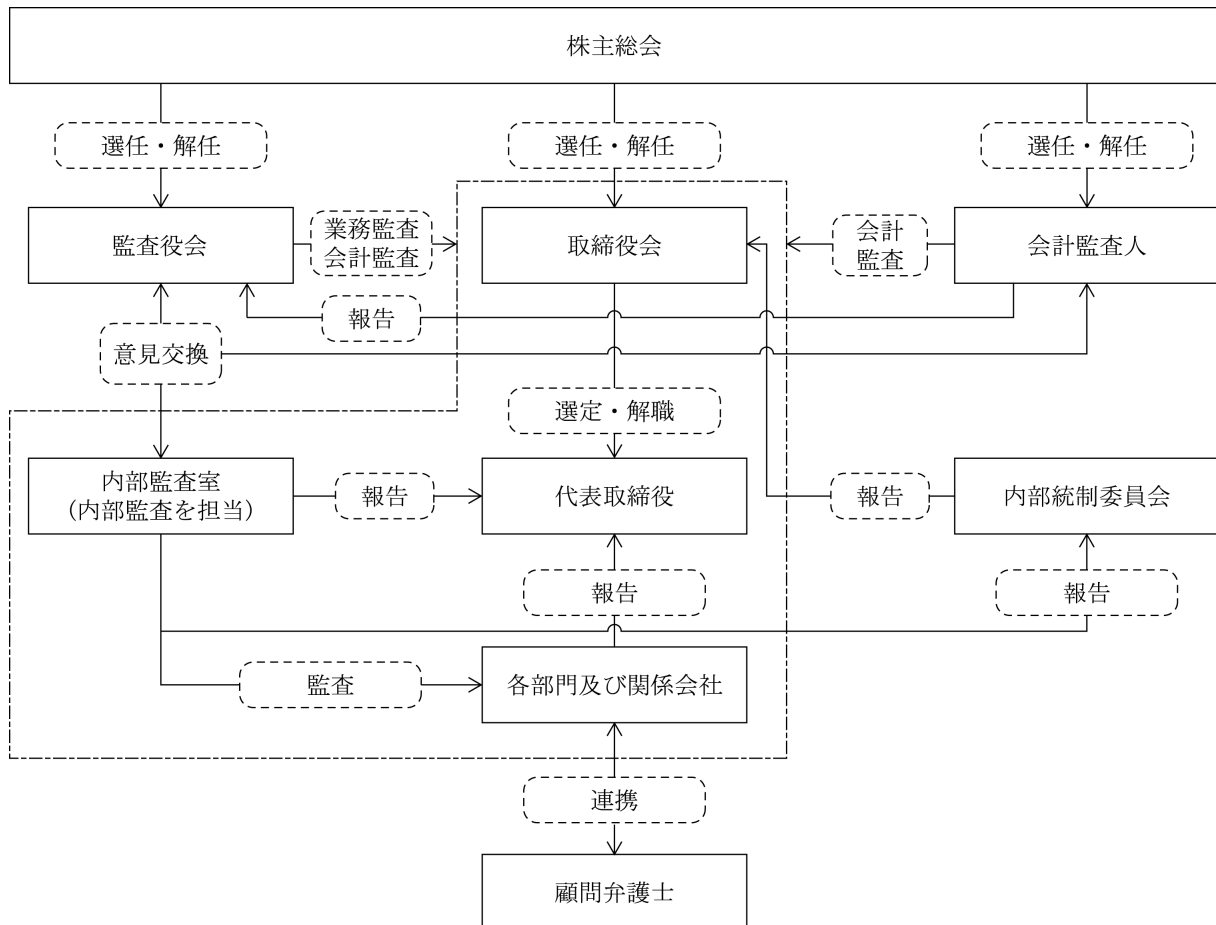
当社は、経営の執行と監視・監督の機能が発揮されるシステムとして監査役会制度を採用し、取締役会、監査役会および会計監査人を中心としたコーポレート・ガバナンス体制を構築しております。

取締役会は、代表取締役社長永井博が議長を務め、代表取締役会長太田明弘、常務取締役藤田正人、取締役浅生千春、檜浦達也、社外取締役平井周の6名で構成しております。取締役会は、月1回の定例取締役会のほか、必要に応じて臨時取締役会を開催し、法令等で定められた事項及び経営における重要事項についての決定・報告を行っております。経営会議は、代表取締役社長永井博が議長を務め、取締役（非常勤を除く。）及び部室長以上の役職者で構成しております。経営会議は、月1回開催し、営業上の重要事項について意思決定を行うとともに、営業上の重要事項や課題について討議しております。なお、法的な判断が必要な場合には、顧問弁護士に随時確認し、アドバイスを受けております。

経営監督を行う監査役会は、監査役新土居友一が議長を務め、社外監査役竹山直彦、上田文雄の3名(内、非常勤監査役2名)で構成し、月1回の監査役会を開催しております。取締役会には監査役全員が出席し、取締役の職務執行状況につき監査を行っております。

会計監査については、仰星監査法人と監査契約を締結しております。四半期及び期末など定期的に会計監査を受け、経理処理及び財務情報の適正を期しております。

当社では、監査役会設置会社として、社外監査役による中立的視点のもと、取締役の職務執行の監査を行っております。監査役及び監査役会は取締役との会合等を通じて、会社の対処すべき課題、リスク等について意見交換することで経営監督を行っております。また、社外取締役は、取締役会で独立した立場から意見を述べるとともに経営監督機能を強化する役割を担っております。このような体制が効果的かつ効率的な企業統治を図ることができると判断し、現体制を採用しております。



③ 企業統治に関するその他の事項

a. 内部統制システムの整備の状況

当社では、取締役会で決議した「内部統制システムの基本方針」に基づき、財務報告の信頼性を高めること、法令等の遵守、資産の保全を図ることを目的として内部統制システムを構築しております。また、更なる透明性の高い経営を実現すべく代表取締役を委員長とする内部統制委員会を設置し、内部統制を推進する体制を強化しております。

b. リスク管理体制の整備の状況

当社は、責任ある民間教育機関として継続的に存続・発展を目指す企業として、リスクマネジメントは重要な課題であると考えております。学習塾業界に関連する法令は、特定商取引に関する法律、不当景品類及び不当表示防止法、消費者契約法、著作権法、個人情報保護法等があります。当社は、法令及び定款・諸規程等を遵守し、問題を早期に発見、対処できる体制づくりに努めております。

特に、当社が保有している個人情報に関しては、「個人情報管理規程」を設け、継続的に社員教育を行っております。これに併せて、内部監査室は各部署・教室における情報管理状況を調査し、必要に応じて指導を行っております。

また、塾生の安全確保のため、防災・防犯対策マニュアルを配布し、各教室に周知徹底を図るとともに、年1回の防災訓練を実施しております。

c. 子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況

当社では、各子会社を管轄する取締役を取締役会で選任するとともに、関係会社管理規程を制定し、子会社の業務の適正性を確認しております。また、内部監査室では、子会社についても同様に職務執行状況について、適宜監査を行っております。

④ 取締役の定数

当社の取締役は10名以内とする旨を定款で定めております。

⑤ 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任の決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び累積投票によらない旨を定款に定めております。

⑥ 取締役会で決議することができる株主総会決議事項

a. 自己株式取得に関する要件

当社は、自己の株式の取得について、経済情勢の変化に対応して財務政策等の経営諸施策を機動的に遂行することを可能にするため、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって同条第1項に定める市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。

b. 中間配当に関する事項

当社は、株主への安定的な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定に基づき、取締役会の決議によって中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

⑦ 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【役員の状況】

① 役員一覧

男性9名 女性-名 (役員のうち女性の比率-%)

| 役職名 | 氏名 | 生年月日 | 略歴 | 任期 | 所有株式数(株) |
|-------------|-------|-------------|--|------|-----------|
| 代表取締役 会長 | 太田 明弘 | 1954年2月4日生 | 1976年4月 関西教育学院入社 1982年3月 同社退社 1982年7月 開成教育セミナー創業 1987年1月 当社設立 同 代表取締役社長 2001年6月 ㈱レコ 代表取締役 2003年5月 ㈱アドユニット(現㈱アプリス)設立 同 同社代表取締役社長 2009年12月 ㈱個夢 取締役 2010年2月 ㈱東京フェリックス 代表取締役社長 2011年8月 ㈱アプリス 取締役(現任) 2011年12月 ㈱アイビー 取締役 2015年12月 ㈱global bridge 大阪 取締役(現任) 2018年6月 当社代表取締役会長(現任) 2018年11月 成学社コリア㈱ 取締役(現任) | (注)3 | 1,449,100 |
| 代表取締役 社長 | 永井 博 | 1963年9月6日生 | 1987年4月 関西大倉高校 非常勤講師 1988年3月 同校退職 1988年4月 当社入社 1991年7月 当社取締役教務次長 2000年4月 当社取締役第二事業部長 2006年5月 当社常務取締役 2009年12月 ㈱個夢 代表取締役社長 2013年6月 当社専務取締役 2018年6月 当社代表取締役社長(現任) | (注)3 | 87,445 |
| 常務取締役 | 藤田 正人 | 1961年1月7日生 | 1983年4月 ㈱太陽神戸銀行(現㈱三井住友銀行)入行 2005年10月 当社へ出向 同 株式公開準備室長 2007年4月 当社社長室長 2007年8月 当社取締役管理部長 2008年1月 当社へ転籍 2009年12月 ㈱個夢 取締役 2010年2月 ㈱東京フェリックス 取締役 2011年12月 ㈱アイビー 取締役 2012年4月 当社取締役経営企画部長 2015年4月 当社取締役経営企画部長兼人事部長 2015年12月 ㈱global bridge 大阪 取締役(現任) 2018年5月 当社取締役 2018年6月 当社常務取締役(現任) 2018年11月 成学社コリア㈱ 代表取締役(現任) | (注)3 | 17,367 |
| 取締役 | 浅生 千春 | 1959年2月26日生 | 1983年5月 関西教育学院入社 1986年3月 同社退社 1986年4月 明智塾入社 1991年3月 同社退社 1991年4月 当社入社 1992年9月 当社総務部次長 2003年6月 当社取締役第三事業部長 2005年8月 ㈱アプリス 取締役 2006年4月 当社取締役経営企画部長 2007年4月 当社取締役開発部長 2012年4月 当社取締役管理開発部長 2016年6月 ㈱アプリス 代表取締役社長 2017年4月 当社取締役 2017年6月 ㈱global bridge 大阪 代表取締役社長(現任) 2018年4月 ㈱アプリス 取締役(現任) 2019年4月 当社取締役保育事業部長(現任) | (注)3 | 31,509 |

| 役職名 | 氏名 | 生年月日 | 略歴 | | 任期 | 所有株式数(株) |
|--------|--------|--------------|--|---|------|-----------|
| 取締役 | 檜浦 達也 | 1966年11月19日生 | 1993年4月 1997年4月 1997年6月 2006年4月 2008年4月 2014年6月 2017年4月 2018年4月 | (株)日本給食入社 同社退社 当社入社 当社個別指導部長 当社執行役員個別指導部長 当社取締役個別指導部長 当社取締役企画開発部長 当社取締役(現任) (株)アプリス 代表取締役社長(現任) | (注)3 | 14,263 |
| 取締役 | 平井 周 | 1962年10月6日生 | 1990年4月 1991年4月 2010年4月 2010年8月 | 学校法人此花学院勤務 学校法人此花学院 常務理事 学校法人此花学院(現学校法人借星学園) 学院長室室長 当社取締役(現任) | (注)3 | 4,000 |
| 常勤監査役 | 新土居 友一 | 1961年4月1日生 | 1987年3月 1998年5月 2009年3月 2009年3月 同 2017年6月 | (株)教育進学研究所入社 同社取締役 同社退社 当社入社 ブロック長 当社監査役(現任) (株)アプリス 監査役(現任) (株)global bridge 大阪 監査役(現任) | (注)4 | — |
| 非常勤監査役 | 竹山 直彦 | 1965年12月14日生 | 1991年4月 1992年8月 2002年10月 同 2006年5月 2008年12月 2009年1月 2012年5月 2014年12月 | (株)日本総合研究所入社 同社退社 弁護士登録 権藤健一法律事務所入所 当社非常勤監査役(現任) 権藤健一法律事務所退所 竹山法律事務所開設 竹山・田上法律事務所開設 竹山法律事務所開設 | (注)4 | 2,865 |
| 非常勤監査役 | 上田 文雄 | 1953年2月9日生 | 1975年4月 2004年7月 2004年8月 2004年9月 2007年8月 2007年12月 | 大阪国税局入局 大阪国税局退職 税理士登録 上田文雄税理士事務所開設 当社顧問税理士 当社非常勤監査役(現任) | (注)4 | 14,349 |
| 計 | | | | | | 1,620,898 |

- (注) 1 取締役平井周は、社外取締役であります。
2 非常勤監査役竹山直彦及び非常勤監査役上田文雄は、社外監査役であります。
3 2019年6月26日開催の定時株主総会の時から2年
4 2019年6月26日開催の定時株主総会の時から4年
5 当社は2006年4月より執行役員制度を導入しております。執行役員は、下記のとおりであります。

| 役名 | 職名 | 氏名 |
|------|----|-------|
| 執行役員 | — | 浅井 一行 |

② 社外役員の状況

当社の社外取締役は1名、社外監査役は2名であります。

社外取締役である平井周氏は、教育者、学校経営者としての豊富な経験と幅広い知見に基づき、公正かつ客観的な立場にたって適切な意見、指導をお願いできるものと判断し選任しております。同氏は当社が寄付を行っている学校法人此花学院（現学校法人偕星学園）の出身ですが、取引の規模、性質に照らして、株主並びに投資者の判断に影響を及ぼすおそれはなく、社外取締役としての独立性に影響を与えるものではないと判断しております。

社外監査役である竹山直彦氏は、弁護士として有する知識及び経験を活かし、経営の監視や適切な助言をお願いできるものと判断し選任しております。同氏は、竹山法律事務所の代表を務めておりますが、当社との間には特別な利害関係はありません。

社外監査役である上田文雄氏は、税理士として財務及び会計に関する相当程度の知見を有していることから、経営の監視や適切な助言をお願いできるものと判断し選任しております。同氏は、上田文雄税理士事務所の代表を務めておりますが、当社との間には特別な利害関係はありません。また、独立役員として指定し、東京証券取引所に届け出ております。

なお、社外取締役及び社外監査役が保有する当社の株式の数は、上記「①役員一覧」の所有株式数の欄に記載しております。

当社は、社外取締役及び社外監査役を選任するための独立性に関する基準又は方針は定めていないものの、選任にあたっては、一般株主と利益相反が生じるおそれのない者を確保するという社外役員の趣旨に鑑み選任しております。

③ 社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門である内部監査室との関係については、取締役会、監査役会及び内部統制委員会等において、適宜報告及び意見交換が行われております。

(3) 【監査の状況】

① 監査役監査の状況

監査役監査は、常勤監査役1名、社外監査役2名で実施しており、月1回の監査役会により監査役間の連携を図っております。また、常勤監査役は、社内の重要な会議に出席するとともに、議事録閲覧や各部署への訪問監査の実施等により、社内業務執行状況の課題や問題点を随時把握する体制を採っております。なお、社外監査役上田文雄氏は、税理士の資格を有し、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。

② 内部監査の状況

当社では、社長直属の独立部署として内部監査室（室長1名、室員1名）を設置し、各部門及び関係会社の業務執行の妥当性・適法性・効率性について確認、検証を行うため、監査計画に基づく教室及び各部署に対する訪問監査を行っております。監査結果については社長に報告し、業務改善に役立てております。

監査役と監査法人、内部監査室との連携につきまして、監査法人と随時に意見交換を行い会計監査の報告を受けること等により監査の実効性を高めるとともに、内部監査室と協力して監査を実施することで、社内情報の把握に努めております。

③ 会計監査の状況

a. 監査法人の名称

仰星監査法人

b. 業務を執行した公認会計士

洪 誠悟

池上由香

c. 監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士5名、その他5名であります。

e. 監査法人の選定方針と理由

当社は監査法人を選定するにあたっては、公正不偏の態度及び独立の立場が保持され、職業的専門家として適切な監査が実施されることを基準としております。当社の監査を担当する仰星監査法人の監査実績は、そうした観点を十分満たしており、再任が妥当と判断いたしました。

f. 監査役及び監査役会による監査法人の評価

当社は監査法人を選定するにあたっては、会計監査の適正性及び信頼性を確保することを目的とし、そのために会計監査人は公正不偏の態度及び独立の立場を保持し、職業的専門家として適切な監査を実施していることを基準としております。当社の会計監査人である仰星監査法人の監査実績は、そうした観点から十分満たしており再任が妥当と判断いたしました。

なお、監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合に、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定いたします。また監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号のいずれかに該当すると認められる場合に、監査役全員の同意に基づき、監査役会が会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

④ 監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬

| 区分 | 前連結会計年度 | | 当連結会計年度 | |
|-------|------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | 監査証明業務に基づく報酬（千円） | 非監査業務に基づく報酬（千円） | 監査証明業務に基づく報酬（千円） | 非監査業務に基づく報酬（千円） |
| 提出会社 | 23,400 | — | 23,400 | — |
| 連結子会社 | — | — | — | — |
| 計 | 23,400 | — | 23,400 | — |

b. 監査公認会計士等と同一のネットワークに対する報酬

該当事項はありません。

c. その他重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

d. 監査報酬の決定方針

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針としましては、監査日数、監査業務の内容を総合的に勘案した上で、決定することとしております。

e. 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

会社が提示した会計監査人の報酬額について、監査役会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、過年度の監査計画における監査項目別、階層別監査時間の実績及び報酬の推移並びに会計監査人の職務遂行状況を確認し、当事業年度の監査計画及び報酬額の妥当性を検討した結果、会計監査人の報酬等について会社法第399条第1項の同意を行っております。

(4) 【役員の報酬等】

① 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

役員の報酬等の額は、株主総会で承認された報酬総額の範囲内において、経営内容、経済情勢、社員給与とのバランス等を考慮した上で、取締役会の決議により決定し、各取締役の配分は代表取締役（会長）に一任しております。また、監査役の報酬は監査役の協議により決定しております。

② 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

| 役員区分 | 報酬等の総額（千円） | 報酬等の種類別の総額（千円） | | 対象となる役員の員数（人） |
|--------------------|------------|----------------|--------|---------------|
| | | 固定報酬 | 業績連動報酬 | |
| 取締役 (社外取締役を除く。) | 89,070 | 89,070 | — | 5 |
| 監査役 (社外監査役を除く。) | 5,400 | 5,400 | — | 1 |
| 社外役員 | 8,400 | 8,400 | — | 3 |

(注) 1 取締役の報酬限度額は、2005年8月26日開催の第19期定時株主総会において、月額20,000千円以内（ただし、使用人分給与は含まない）と決議いただいております。

2 監査役の報酬限度額は、2005年8月26日開催の第19期定時株主総会において、月額2,000千円以内と決議いただいております。

③ 役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

(5) 【株式の保有状況】

① 投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、保有目的が純投資目的である投資株式と純投資目的以外の目的である投資株式の区分について、余資運用として、株式の価値の変動又は株式に係る配当により利益を得ることを目的とするものか、取引深耕や業界の動向を掴むこと等を目的とするものかを考慮し基準としております。

② 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

a. 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社では、取引深耕を目的とした銘柄については取引状況を勘案して保有目的に適合しているか否かを、業界動向把握を目的とした銘柄については決算状況を確認することで、保有目的に適合しているかを基準としております。

当該基準を踏まえ、保有銘柄の時価を毎月確認し、代表取締役へ報告しております。また、業界動向については、決算状況の他、IR情報も取締役間で共有することで、個別銘柄の保有の適否を検証しております。

このような継続的な検証の結果、全銘柄について、保有が適当であるとの結論を得ております。

b. 銘柄数及び貸借対照表計上額

| | 銘柄数 (銘柄) | 貸借対照表計上額の 合計額(千円) |
|------------|-------------|----------------------|
| 非上場株式 | 5 | 11,571 |
| 非上場株式以外の株式 | 12 | 22,456 |

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

| | 銘柄数 (銘柄) | 株式数の増加に係る取得 価額の合計額(千円) | 株式数の増加の理由 |
|------------|-------------|---------------------------|--------------------|
| 非上場株式 | — | — | — |
| 非上場株式以外の株式 | 1 | 1,200 | 事業戦略投資のため、新規銘柄を購入。 |

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

該当事項はありません。

c. 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

特定投資株式

| 銘柄 | 当事業年度 | 前事業年度 | 保有目的、定量的な保有効果(注1) 及び株式数が増加した理由 | 当社の株式の保有の有無 |
|--------------------|------------------|------------------|-----------------------------------|-------------|
| | 株式数(株) | 株式数(株) | | |
| | 貸借対照表計上額 (千円) | 貸借対照表計上額 (千円) | | |
| ㈱三井住友フィナンシャルグループ | 1,200 | 1,200 | 円滑な取引関係を維持するため。 | 無(注2) |
| | 4,651 | 5,349 | | |
| ㈱三菱UFJフィナンシャル・グループ | 8,000 | 8,000 | 円滑な取引関係を維持するため。 | 無(注3) |
| | 4,400 | 5,576 | | |
| ㈱ウィザス | 10,000 | 10,000 | 事業戦略投資のため。 | 有 |
| | 4,060 | 4,270 | | |
| ㈱京進 | 2,000 | 2,000 | 事業戦略投資のため。 | 無 |
| | 2,756 | 1,894 | | |
| ㈱秀英予備校 | 3,000 | 3,000 | 事業戦略投資のため。 | 無 |
| | 1,458 | 1,440 | | |
| ㈱スプリックス | 500 | — | 事業戦略投資のため。新規上場に伴い購入。 | 無 |
| | 1,429 | — | | |
| ㈱阿波銀行 | 400 | 2,000 | 円滑な取引関係を維持するため。株式の併合により、株式数は減少。 | 有 |
| | 1,125 | 1,364 | | |
| ㈱早稲田アカデミー | 1,500 | 1,500 | 事業戦略投資のため。 | 無 |
| | 1,039 | 2,371 | | |
| ㈱東京個別指導学院 | 500 | 500 | 事業戦略投資のため。 | 無 |
| | 557 | 565 | | |
| ㈱リソー教育 | 600 | 200 | 事業戦略投資のため。株式の分割により、株式数は増加。 | 無 |
| | 360 | 159 | | |
| ㈱レアジョブ | 100 | 100 | 事業戦略投資のため。 | 無 |
| | 331 | 183 | | |
| ㈱明光ネットワークジャパン | 300 | 300 | 事業戦略投資のため。 | 無 |
| | 288 | 385 | | |

- (注) 1 定量的な保有効果については記載が困難ではありますが、当社は、個別銘柄ごとに取引状況や決算状況等を確認し、継続的な検証を行った結果、現状保有する全銘柄について、いずれも目的に沿って保有していることを確認しております。
- 2 ㈱三井住友フィナンシャルグループは当社株式を保有しておりませんが、同社子会社である㈱三井住友銀行は当社株式を保有しております。
- 3 ㈱三菱UFJフィナンシャル・グループは当社株式を保有しておりませんが、同社子会社である㈱三菱UFJ銀行は当社株式を保有しております。

③ 保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

第5【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下、「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当連結会計年度(2018年4月1日から2019年3月31日まで)の連結財務諸表に含まれる比較情報のうち、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成30年3月23日内閣府令第7号。以下「改正府令」という。)による改正後の連結財務諸表規則第15条の5第2項第2号及び同条第3項に係るものについては、改正府令附則第3条第2項により、改正前の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2018年4月1日から2019年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2018年4月1日から2019年3月31日まで)の財務諸表について、仰星監査法人により監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、同法人の行う研修等に参加しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (2018年3月31日) | 当連結会計年度 (2019年3月31日) |
|-------------|-------------------------|-------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 1,028,544 | 1,514,622 |
| 営業未収入金 | 1,021,220 | 1,040,131 |
| 商品 | 66,856 | 80,879 |
| 貯蔵品 | 12,407 | 17,042 |
| その他 | 608,556 | 613,532 |
| 貸倒引当金 | △20,763 | △18,257 |
| 流動資産合計 | 2,716,822 | 3,247,951 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物 | ※1 3,562,186 | ※1 4,220,747 |
| 減価償却累計額 | △1,204,608 | △1,379,458 |
| 建物及び構築物（純額） | 2,357,577 | 2,841,288 |
| 土地 | ※1 1,107,742 | ※1 1,107,772 |
| リース資産 | 220,406 | 228,410 |
| 減価償却累計額 | △119,587 | △136,002 |
| リース資産（純額） | 100,819 | 92,407 |
| 建設仮勘定 | 11,183 | 216 |
| その他 | 718,726 | 788,873 |
| 減価償却累計額 | △482,797 | △570,586 |
| その他（純額） | 235,929 | 218,286 |
| 有形固定資産合計 | 3,813,251 | 4,259,971 |
| 無形固定資産 | | |
| のれん | 8,322 | 1,353 |
| その他 | 133,096 | 118,709 |
| 無形固定資産合計 | 141,419 | 120,062 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 35,873 | 34,027 |
| 長期貸付金 | 73,466 | 74,813 |
| 繰延税金資産 | 182,777 | 135,528 |
| 差入保証金 | 915,748 | 917,948 |
| その他 | 108,932 | 67,918 |
| 投資その他の資産合計 | 1,316,798 | 1,230,236 |
| 固定資産合計 | 5,271,469 | 5,610,271 |
| 資産合計 | 7,988,291 | 8,858,222 |

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (2018年3月31日) | 当連結会計年度 (2019年3月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 買掛金 | 183,544 | 198,664 |
| 短期借入金 | ※1 953,668 | ※1 596,668 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | ※1 484,063 | ※1 582,079 |
| リース債務 | 17,375 | 16,778 |
| 未払法人税等 | 52,202 | 206,900 |
| 前受金 | 683,079 | 733,509 |
| 賞与引当金 | 130,703 | 129,037 |
| 未払金 | 902,546 | 785,563 |
| その他 | 285,915 | 356,911 |
| 流動負債合計 | 3,693,099 | 3,606,113 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | ※1 1,434,868 | ※1 1,996,678 |
| リース債務 | 63,623 | 56,401 |
| 役員退職慰労引当金 | 3,570 | - |
| 退職給付に係る負債 | 6,825 | 5,890 |
| 繰延税金負債 | 1,474 | 31,876 |
| 資産除去債務 | 423,563 | 465,729 |
| その他 | 26,775 | 26,054 |
| 固定負債合計 | 1,960,700 | 2,582,631 |
| 負債合計 | 5,653,800 | 6,188,744 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 235,108 | 235,108 |
| 資本剰余金 | 175,108 | 175,108 |
| 利益剰余金 | 2,205,527 | 2,543,961 |
| 自己株式 | △288,452 | △288,452 |
| 株主資本合計 | 2,327,291 | 2,665,725 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 5,625 | 4,026 |
| 為替換算調整勘定 | 1,574 | △273 |
| その他の包括利益累計額合計 | 7,199 | 3,753 |
| 純資産合計 | 2,334,491 | 2,669,478 |
| 負債純資産合計 | 7,988,291 | 8,858,222 |

②【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月 31日) | 当連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日) |
|-----------------|--|--|
| 売上高 | 11,243,646 | 11,890,709 |
| 売上原価 | 9,376,225 | 9,641,722 |
| 売上総利益 | 1,867,420 | 2,248,986 |
| 販売費及び一般管理費 | ※1 1,846,870 | ※1 1,864,825 |
| 営業利益 | 20,550 | 384,160 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 1,188 | 1,564 |
| 受取配当金 | 637 | 718 |
| 補助金収入 | 315,057 | 269,632 |
| 為替差益 | - | 1,632 |
| その他 | 11,253 | 48,959 |
| 営業外収益合計 | 328,136 | 322,507 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 23,367 | 26,246 |
| 為替差損 | 6,389 | - |
| その他 | 1,804 | 673 |
| 営業外費用合計 | 31,561 | 26,919 |
| 経常利益 | 317,124 | 679,748 |
| 特別利益 | | |
| 役員退職慰労引当金戻入額 | - | ※2 1,378 |
| 事業譲渡益 | - | 7,460 |
| 特別利益合計 | - | 8,838 |
| 特別損失 | | |
| 投資有価証券評価損 | 7,156 | 743 |
| 減損損失 | ※3 90,261 | ※3 28,192 |
| 固定資産売却損 | ※4 8,395 | - |
| 特別損失合計 | 105,813 | 28,935 |
| 税金等調整前当期純利益 | 211,311 | 659,651 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 55,707 | 184,567 |
| 法人税等調整額 | 53,411 | 78,354 |
| 法人税等合計 | 109,119 | 262,921 |
| 当期純利益 | 102,191 | 396,730 |
| 非支配株主に帰属する当期純利益 | - | - |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 102,191 | 396,730 |

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日) | 当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日) |
|--------------|--|--|
| 当期純利益 | 102,191 | 396,730 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 1,593 | △1,598 |
| 為替換算調整勘定 | 1,827 | △1,847 |
| その他の包括利益合計 | ※1 3,420 | ※1 △3,446 |
| 包括利益 | 105,612 | 393,283 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る包括利益 | 105,612 | 393,283 |
| 非支配株主に係る包括利益 | - | - |

③【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

(単位：千円)

| | 株主資本 | | | | |
|---------------------|---------|---------|-----------|----------|-----------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | 利益剰余金 | 自己株式 | 株主資本合計 |
| 当期首残高 | 235,108 | 175,108 | 2,159,974 | △288,452 | 2,281,738 |
| 当期変動額 | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | △56,638 | | △56,638 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | | | 102,191 | | 102,191 |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | | | | | |
| 当期変動額合計 | — | — | 45,553 | — | 45,553 |
| 当期末残高 | 235,108 | 175,108 | 2,205,527 | △288,452 | 2,327,291 |

| | その他の包括利益累計額 | | | 純資産合計 |
|---------------------|------------------|----------|-------------------|-----------|
| | その他有価証券 評価差額金 | 為替換算調整勘定 | その他の包括利益 累計額合計 | |
| 当期首残高 | 4,031 | △252 | 3,778 | 2,285,517 |
| 当期変動額 | | | | |
| 剰余金の配当 | | | | △56,638 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | | | | 102,191 |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | 1,593 | 1,827 | 3,420 | 3,420 |
| 当期変動額合計 | 1,593 | 1,827 | 3,420 | 48,973 |
| 当期末残高 | 5,625 | 1,574 | 7,199 | 2,334,491 |

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：千円)

| | 株主資本 | | | | |
|---------------------|---------|---------|-----------|----------|-----------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | 利益剰余金 | 自己株式 | 株主資本合計 |
| 当期首残高 | 235,108 | 175,108 | 2,205,527 | △288,452 | 2,327,291 |
| 当期変動額 | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | △58,296 | | △58,296 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | | | 396,730 | | 396,730 |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | | | | | |
| 当期変動額合計 | — | — | 338,433 | — | 338,433 |
| 当期末残高 | 235,108 | 175,108 | 2,543,961 | △288,452 | 2,665,725 |

| | その他の包括利益累計額 | | | 純資産合計 |
|---------------------|------------------|----------|-------------------|-----------|
| | その他有価証券 評価差額金 | 為替換算調整勘定 | その他の包括利益 累計額合計 | |
| 当期首残高 | 5,625 | 1,574 | 7,199 | 2,334,491 |
| 当期変動額 | | | | |
| 剰余金の配当 | | | | △58,296 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | | | | 396,730 |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | △1,598 | △1,847 | △3,446 | △3,446 |
| 当期変動額合計 | △1,598 | △1,847 | △3,446 | 334,987 |
| 当期末残高 | 4,026 | △273 | 3,753 | 2,669,478 |

④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月 31日) | 当連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日) |
|-------------------------|--|--|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前当期純利益 | 211,311 | 659,651 |
| 減価償却費 | 301,750 | 344,814 |
| 減損損失 | 90,261 | 28,192 |
| のれん償却額 | 5,677 | 3,094 |
| 長期前払費用償却額 | 9,051 | 9,564 |
| 貸倒引当金の増減額 (△は減少) | △12 | △2,053 |
| 保険返戻金 | - | △25,226 |
| 支払利息 | 23,367 | 26,246 |
| 補助金収入 | △315,057 | △269,632 |
| 売上債権の増減額 (△は増加) | △41,067 | △18,990 |
| 未収入金の増減額 (△は増加) | △26,550 | △22,394 |
| たな卸資産の増減額 (△は増加) | 17,936 | △18,659 |
| 前払費用の増減額 (△は増加) | △5,022 | △40,973 |
| 仕入債務の増減額 (△は減少) | 18,938 | 16,119 |
| 前受金の増減額 (△は減少) | 12,960 | 50,429 |
| 未払金の増減額 (△は減少) | 133,523 | 27,839 |
| 未払消費税等の増減額 (△は減少) | 5,824 | 111,340 |
| その他 | 14,291 | △7,276 |
| 小計 | 457,184 | 872,086 |
| 利息及び配当金の受取額 | 673 | 838 |
| 利息の支払額 | △23,184 | △26,191 |
| 法人税等の支払額 | △79,513 | △39,011 |
| 法人税等の還付額 | 1,599 | 9,566 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 356,759 | 817,287 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 定期預金の預入による支出 | △9,012 | △49,012 |
| 保険解約による収入 | - | 72,074 |
| 有形固定資産の取得による支出 | △1,061,325 | △881,950 |
| 無形固定資産の取得による支出 | △40,833 | △36,600 |
| 補助金の受取額 | 91,824 | 338,298 |
| 補助金の返還額 | - | △30,871 |
| 資産除去債務の履行による支出 | △2,454 | △5,993 |
| 事業譲受による支出 | - | △865 |
| 事業譲渡による収入 | - | 8,057 |
| 長期貸付けによる支出 | △24,000 | △10,000 |
| 長期貸付金の回収による収入 | - | 11,594 |
| 差入保証金の差入による支出 | △89,305 | △35,749 |
| 差入保証金の回収による収入 | 10,103 | 18,683 |
| その他の支出 | △13,845 | △4,837 |
| その他の収入 | 12,777 | 650 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △1,126,072 | △606,522 |

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日) | 当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日) |
|----------------------|--|--|
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入金の純増減額 (△は減少) | 370,332 | △357,000 |
| 長期借入れによる収入 | 841,000 | 1,234,400 |
| 長期借入金の返済による支出 | △463,247 | △574,573 |
| 配当金の支払額 | △56,659 | △58,182 |
| その他の支出 | △18,384 | △15,896 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 673,040 | 228,746 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 1,400 | △2,446 |
| 現金及び現金同等物の増減額 (△は減少) | △94,870 | 437,065 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 977,272 | 882,402 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | ※1 882,402 | ※1 1,319,467 |

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

すべての子会社を連結しております。

連結子会社の数 4社

連結子会社の名称

(株)アプリス

(株)global bridge 大阪

APLIS INTERNATIONAL EDUCATION CORP.

成学社 코리아(株)

当連結会計年度において、成学社 코리아(株)を新たに設立したことにより、同社を連結の範囲に含めております。

2 持分法の適用に関する事項

非連結子会社及び関連会社はないため、持分法の適用はありません。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、成学社 코리아(株)の決算日は、12月31日であります。

連結財務諸表の作成にあたっては、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4 会計方針に関する事項

(1)重要な資産の評価基準及び評価方法

①有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

連結決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

②たな卸資産

a 教材

移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

b 食材

先入先出法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

(2)重要な減価償却資産の減価償却の方法

①有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 3年～40年

機械装置及び運搬具 2年～4年

その他 3年～17年

②無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

③リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3)重要な引当金の計上基準

①貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

②賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支払に備えるため、賞与支給見込額のうち当連結会計年度の負担額を計上しております。

③役員退職慰労引当金

連結子会社の一部は、役員の退職慰労金の支出に備えるため、役員退職金規程に基づく期末要支給額を計上しております。

(4)退職給付に係る会計処理の方法

当社及び連結子会社の一部は、2002年4月1日より確定拠出年金制度を採用しております。本制度移行においては退職一時金を確定拠出年金へ移管していないため、移行時の在籍従業員に対する退職一時金の退職給付に係る負債を計上しております。なお、退職給付債務は本制度移行前の退職一時金制度に基づき、簡便法により算定したものであります。

(5)外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

在外連結子会社等の資産及び負債並びに収益及び費用は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めて計上しております。

(6)のれんの償却方法及び償却期間

①償却方法

定額法を採用しております。

②償却期間

5年

(7)連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(8)その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当連結会計年度の費用として処理しております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日 企業会計基準委員会)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日 企業会計基準委員会)

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は次の5つのステップを適用し認識されます。

ステップ1：顧客との契約を認識する。

ステップ2：契約における履行義務を識別する。

ステップ3：取引価格を算定する。

ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5：履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

2022年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時においてで評価中であります。

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日。以下「税効果会計基準一部改正」という。)を当連結会計年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更するとともに、税効果会計関係注記を変更しました。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」157,184千円のうち156,727千円は、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」182,777千円に含めて表示しており、456千円は、「固定負債」の「繰延税金負債」1,931千円と相殺した結果、「固定負債」の「繰延税金負債」は1,474千円として表示しており、変更前と比べて総資産が456千円減少しております。

また、税効果会計関係注記において、税効果会計基準一部改正第3項から第5項に定める「税効果会計に係る会計基準」注解(注8)(評価性引当額の合計額を除く。)及び同注解(注9)に記載された内容を追加しております。ただし、当該内容のうち前連結会計年度に係る内容については、税効果会計基準一部改正第7項に定める経過的な取扱いに従って記載しておりません。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めておりました「前払費用の増減額(△は減少)」は、重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしております。また、前連結会計年度において、独立掲記しておりました「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)」及び「未払費用の増減額(△は減少)」は、重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」に表示していた「役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)」532千円、「未払費用の増減額(△は減少)」△9,691千円及び「その他」18,428千円は、「前払費用の増減額(△は減少)」△5,022千円、「その他」14,291千円として組み替えております。

前連結会計年度において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「法人税等の支払額」に含めていた「法人税等の還付額」は、重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「法人税等の支払額」に表示していた△77,914千円は、「法人税等の支払額」△79,513千円、「法人税等の還付額」1,599千円として組み替えております。

前連結会計年度において、「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他の支出」に含めておりました「定期預金の預入による支出」は、重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしております。また、前連結会計年度において、独立掲記しておりました「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「投資有価証券の取得による支出」及び「有形固定資産の売却による収入」は、重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「その他の支出」及び「その他の収入」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「投資活動によるキャッシュ・フロー」に表示していた「投資有価証券の取得による支出」△668千円、「有形固定資産の売却による収入」6,422千円、「その他の支出」△22,188千円及び「その他の収入」6,354千円は、「定期預金の預入による支出」△9,012千円、「その他の支出」△13,845千円及び「その他の収入」12,777千円として組み替えております。

(連結貸借対照表関係)

※1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は次のとおりであります。

| | 前連結会計年度 (2018年3月31日) | 当連結会計年度 (2019年3月31日) |
|---------|-------------------------|-------------------------|
| 建物及び構築物 | 287,758千円 | 793,162千円 |
| 土地 | 607,817 " | 973,676 " |
| 計 | 895,575千円 | 1,766,838千円 |

担保付債務は次のとおりであります。

| | 前連結会計年度 (2018年3月31日) | 当連結会計年度 (2019年3月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------|
| 短期借入金 | 843,672千円 | 496,668千円 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 447,391 " | 522,053 " |
| 長期借入金 | 1,434,868 " | 1,685,032 " |
| 計 | 2,725,932千円 | 2,703,754千円 |

なお、上記担保資産の根抵当権極度額は1,496,000千円であります。

2 当座貸越契約

当社グループは、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。これらの契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

| | 前連結会計年度 (2018年3月31日) | 当連結会計年度 (2019年3月31日) |
|-----------------------|-------------------------|-------------------------|
| 当座貸越限度額及び貸出コミットメントの総額 | 1,628,000千円 | 1,728,000千円 |
| 借入実行残高 | 1,134,668 " | 984,668 " |
| 差引額 | 493,332千円 | 743,332千円 |

(連結損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

| | 前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日) | 当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日) |
|--------------|--|--|
| 広告宣伝費 | 564,532千円 | 551,471千円 |
| 給与手当 | 288,613 " | 275,349 " |
| 賞与引当金繰入額 | 17,356 " | 15,240 " |
| 貸倒引当金繰入額 | 9,719 " | 4,437 " |
| 退職給付費用 | 5,062 " | 4,726 " |
| 役員退職慰労引当金繰入額 | 532 " | — " |

※2 役員退職慰労引当金戻入額

連結子会社である㈱アプリスは、2018年5月11日開催の取締役会において役員退職慰労金制度を廃止することを決議しました。これに伴い、「役員退職慰労引当金」を全額取り崩しております。

※3 減損損失

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

| 用途 | 種類 | 場所 | 減損損失の金額 (千円) |
|----|----------|-------------|-----------------|
| 教室 | 建物及び構築物他 | 大阪府高石市他9教室 | 61,371 |
| | 建物及び構築物他 | 滋賀県彦根市他2教室 | 17,982 |
| | 建物及び構築物他 | 京都府京田辺市他2教室 | 5,543 |
| | 建物及び構築物他 | 東京都世田谷区他1教室 | 2,937 |
| | 建物及び構築物 | 兵庫県宝塚市 | 1,705 |
| | 建物及び構築物 | 奈良県香芝市 | 720 |

(経緯)

上記の資産グループについては、当連結会計年度において業績の低迷などにより収益性が悪化している、又は閉鎖、移転が決まっているため帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しました。

(主な減損損失の内訳)

| | |
|---------|----------|
| 建物及び構築物 | 81,229千円 |
| その他 | 9,031 " |
| 計 | 90,261千円 |

(グルーピングの方法)

事業セグメント別を基本とし、教育関連事業は教室ごとに、不動産賃貸事業及び飲食事業、将来の使用が見込まれない遊休資産は個々の物件単位でグルーピングをしております。

(回収可能価額の算定方法等)

資産グループの回収可能価額は使用価値により測定しておりますが、将来キャッシュ・フローに基づく使用価値がマイナスであるものは回収可能価額を零として評価しております。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

| 用途 | 種類 | 場所 | 減損損失の金額 (千円) |
|----|----------|-------------|-----------------|
| 教室 | 建物及び構築物他 | 大阪府貝塚市他3教室 | 17,774 |
| | 建物及び構築物他 | フィリピン共和国セブ市 | 10,417 |

(経緯)

上記の資産グループについては、当連結会計年度において業績の低迷などにより収益性が悪化している、又は閉鎖、移転が決まっているため帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しました。

(主な減損損失の内訳)

| | |
|---------|----------|
| 建物及び構築物 | 21,292千円 |
| その他 | 6,900 〃 |
| 計 | 28,192千円 |

(グルーピングの方法)

事業セグメント別を基本とし、教育関連事業は教室ごとに、不動産賃貸事業及び飲食事業、将来の使用が見込まれない遊休資産は個々の物件単位でグルーピングをしております。

(回収可能価額の算定方法等)

資産グループの回収可能価額は使用価値により測定しておりますが、将来キャッシュ・フローに基づく使用価値がマイナスであるものは回収可能価額を零として評価しております。

※4 固定資産売却損の内容は、次のとおりであります。

| | 前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日) | 当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日) |
|-----|--|--|
| 建物 | 3,053千円 | 一千円 |
| その他 | 5,342 〃 | — 〃 |
| 計 | 8,395千円 | 一千円 |

(連結包括利益計算書関係)

※1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

| | 前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日) | 当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日) |
|--------------|--|--|
| その他有価証券評価差額金 | | |
| 当期発生額 | 2,295千円 | △2,302千円 |
| 組替調整額 | — 〃 | — 〃 |
| 税効果調整前 | 2,295千円 | △2,302千円 |
| 税効果額 | △702 〃 | 704 〃 |
| その他有価証券評価差額金 | 1,593千円 | △1,598千円 |
| 為替換算調整勘定 | | |
| 当期発生額 | 1,827千円 | △1,847千円 |
| その他の包括利益合計 | 3,420千円 | △3,446千円 |

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

| 株式の種類 | 当連結会計年度期首 | 増加 | 減少 | 当連結会計年度末 |
|---------|-----------|----|----|-----------|
| 普通株式(株) | 5,876,000 | — | — | 5,876,000 |

2 自己株式に関する事項

| 株式の種類 | 当連結会計年度期首 | 増加 | 減少 | 当連結会計年度末 |
|---------|-----------|----|----|----------|
| 普通株式(株) | 350,260 | — | — | 350,260 |

3 配当に関する事項

① 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 | 1株当たり配当額 | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-------|----------|----------|------------|-------------|
| 2017年6月28日 定時株主総会 | 普通株式 | 27,904千円 | 5.05円 | 2017年3月31日 | 2017年6月29日 |
| 2017年11月13日 取締役会 | 普通株式 | 28,733千円 | 5.20円 | 2017年9月30日 | 2017年12月11日 |

② 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 | 配当の原資 | 1株当たり配当額 | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-------|----------|-------|----------|------------|------------|
| 2018年6月28日 定時株主総会 | 普通株式 | 28,733千円 | 利益剰余金 | 5.20円 | 2018年3月31日 | 2018年6月29日 |

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

| 株式の種類 | 当連結会計年度期首 | 増加 | 減少 | 当連結会計年度末 |
|---------|-----------|----|----|-----------|
| 普通株式(株) | 5,876,000 | — | — | 5,876,000 |

2 自己株式に関する事項

| 株式の種類 | 当連結会計年度期首 | 増加 | 減少 | 当連結会計年度末 |
|---------|-----------|----|----|----------|
| 普通株式(株) | 350,260 | — | — | 350,260 |

3 配当に関する事項

① 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 | 1株当たり配当額 | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-------|----------|----------|------------|-------------|
| 2018年6月28日 定時株主総会 | 普通株式 | 28,733千円 | 5.20円 | 2018年3月31日 | 2018年6月29日 |
| 2018年11月13日 取締役会 | 普通株式 | 29,562千円 | 5.35円 | 2018年9月30日 | 2018年12月10日 |

② 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 | 配当の原資 | 1株当たり配当額 | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-------|----------|-------|----------|------------|------------|
| 2019年6月26日 定時株主総会 | 普通株式 | 29,562千円 | 利益剰余金 | 5.35円 | 2019年3月31日 | 2019年6月27日 |

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

| | 前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日) | 当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日) |
|---------------|--|--|
| 現金及び預金 | 1,028,544千円 | 1,514,622千円 |
| 預入期間3か月超の定期預金 | △146,142 〃 | △195,154 〃 |
| 現金及び現金同等物 | 882,402千円 | 1,319,467千円 |

(リース取引関係)

ファイナンス・リース取引 (借主側)

所有権移転ファイナンス・リース取引

(1)リース資産の内容

有形固定資産

教育関連事業における工具、器具及び備品であります。

無形固定資産

教育関連事業におけるソフトウェアであります。

(2)リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1)リース資産の内容

有形固定資産

教育関連事業における建物、機械装置及び運搬具等であります。

(2)リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1)金融商品に対する取組方針

当社グループは、設備投資計画に基づき必要な資金を銀行借入により調達しております。資金運用については、預金その他の安全性の高い金融商品に限定して運用しております。デリバティブ取引は、借入金の金利変動リスクを軽減する目的に限って利用する可能性があります。投機的な取引は行わない方針であります。

(2)金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である営業未収入金は、顧客の信用リスクに晒されております。

投資有価証券は、主に投資信託及び業務上の関係を有する株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。差入保証金は主として教室の賃貸借契約に伴うものであり、貸主の信用リスクに晒されております。

営業債務である未払金は、1年以内の支払期日であります。借入金は、営業取引及び設備投資に係る資金調達であり、その殆んどは固定金利であるため、金利の変動リスクはありません。また、変動金利の借入金に関しましても、金利の変動リスクは僅少であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

①信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社グループは、営業債権である営業未収入金、差入保証金については、経営企画部において、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を定期的にモニタリングし、財務状況の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

②市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

投資有価証券については、月単位で時価や発行体の財務状況等を把握し、保有状況を継続的に見直しております。

③資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

未払金、短期借入金及び長期借入金については、経営企画部において、月単位で各社毎に資金繰計画を作成・更新するとともに、手元流動性の維持等により流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価額がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件を採用することにより当該価額が変動することもあります。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません。(注)2参照)

前連結会計年度(2018年3月31日)

| | 連結貸借対照表計上額 (千円) | 時価 (千円) | 差額 (千円) |
|--------------------------|--------------------|------------|------------|
| (1) 現金及び預金 | 1,028,544 | 1,028,544 | — |
| (2) 営業未収入金 ^{※1} | 1,021,220 | | |
| 貸倒引当金 | △20,763 | | |
| | 1,000,457 | 1,000,457 | — |
| (3) 投資有価証券 | | | |
| その他有価証券 | 23,558 | 23,558 | — |
| (4) 差入保証金 | 915,748 | 900,143 | △15,604 |
| 資産計 | 2,968,308 | 2,952,703 | △15,604 |
| (1) 短期借入金 | 953,668 | 953,668 | — |
| (2) 未払金 | 902,546 | 902,546 | — |
| (3) 長期借入金 ^{※2} | 1,918,932 | 1,927,204 | 8,272 |
| 負債計 | 3,775,146 | 3,783,419 | 8,272 |

※1 営業未収入金に対して計上している貸倒引当金を控除しております。

※2 1年内返済予定の長期借入金を含めて表示しております。

当連結会計年度（2019年3月31日）

| | 連結貸借対照表計上額 (千円) | 時価 (千円) | 差額 (千円) |
|--------------------------|--------------------|------------|------------|
| (1) 現金及び預金 | 1,514,622 | 1,514,622 | — |
| (2) 営業未収入金 ^{※1} | 1,040,131 | | |
| 貸倒引当金 | △18,257 | | |
| | 1,021,873 | 1,021,873 | — |
| (3) 投資有価証券 | | | |
| 其他有価証券 | 22,456 | 22,456 | — |
| (4) 差入保証金 | 917,948 | 915,158 | △2,789 |
| 資産計 | 3,476,900 | 3,474,110 | △2,789 |
| (1) 短期借入金 | 596,668 | 596,668 | — |
| (2) 未払金 | 785,563 | 785,563 | — |
| (3) 長期借入金 ^{※2} | 2,578,758 | 2,587,907 | 9,149 |
| 負債計 | 3,960,989 | 3,970,139 | 9,149 |

※1 営業未収入金に対して計上している貸倒引当金を控除しております。

※2 1年内返済予定の長期借入金を含めて表示しております。

(注) 1 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 営業未収入金

これらはすべて短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

投資有価証券の時価については、株式は取引所の価格によっております。

(4) 差入保証金

差入保証金の時価については、将来キャッシュ・フローを残存期間に対応する国債の利回り等適切な指標による利率で割り引いた現在価値により算定しております。

負債

(1) 短期借入金、(2) 未払金

これらはすべて短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 長期借入金

長期借入金の時価については、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映することから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております。固定金利によるものは、元利金の合計額を新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(注) 2 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：千円)

| 区分 | 2018年3月31日 | 2019年3月31日 |
|-------|------------|------------|
| 非上場株式 | 12,315 | 11,571 |

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

(注) 3 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度 (2018年3月31日)

| | 1年以内 (千円) | 1年超 2年以内 (千円) | 2年超 3年以内 (千円) | 3年超 4年以内 (千円) | 4年超 5年以内 (千円) | 5年超 (千円) |
|--------|--------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|-------------|
| 現金及び預金 | 1,028,544 | — | — | — | — | — |
| 営業未収入金 | 1,000,457 | — | — | — | — | — |
| 差入保証金 | 208,286 | 47,402 | 52,451 | 63,741 | 44,271 | 499,594 |
| 合計 | 2,237,288 | 47,402 | 52,451 | 63,741 | 44,271 | 499,594 |

当連結会計年度 (2019年3月31日)

| | 1年以内 (千円) | 1年超 2年以内 (千円) | 2年超 3年以内 (千円) | 3年超 4年以内 (千円) | 4年超 5年以内 (千円) | 5年超 (千円) |
|--------|--------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|-------------|
| 現金及び預金 | 1,514,622 | — | — | — | — | — |
| 営業未収入金 | 1,021,873 | — | — | — | — | — |
| 差入保証金 | 255,689 | 52,451 | 63,741 | 44,271 | 69,118 | 432,676 |
| 合計 | 2,792,185 | 52,451 | 63,741 | 44,271 | 69,118 | 432,676 |

(注) 4 長期借入金及びその他有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度 (2018年3月31日)

| | 1年以内 (千円) | 1年超 2年以内 (千円) | 2年超 3年以内 (千円) | 3年超 4年以内 (千円) | 4年超 5年以内 (千円) | 5年超 (千円) |
|-------|--------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|-------------|
| 短期借入金 | 953,668 | — | — | — | — | — |
| 長期借入金 | 484,063 | 407,601 | 329,827 | 222,293 | 162,862 | 312,282 |
| 合計 | 1,437,731 | 407,601 | 329,827 | 222,293 | 162,862 | 312,282 |

当連結会計年度 (2019年3月31日)

| | 1年以内 (千円) | 1年超 2年以内 (千円) | 2年超 3年以内 (千円) | 3年超 4年以内 (千円) | 4年超 5年以内 (千円) | 5年超 (千円) |
|-------|--------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|-------------|
| 短期借入金 | 596,668 | — | — | — | — | — |
| 長期借入金 | 582,079 | 507,155 | 601,479 | 342,008 | 216,644 | 329,390 |
| 合計 | 1,178,747 | 507,155 | 601,479 | 342,008 | 216,644 | 329,390 |

(有価証券関係)

1 その他有価証券

前連結会計年度(2018年3月31日)

| 区分 | 連結貸借対照表計上額 (千円) | 取得原価 (千円) | 差額 (千円) |
|----------------------------|--------------------|--------------|------------|
| 連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの | | | |
| ① 株式 | 23,173 | 15,049 | 8,123 |
| ② 債券 | — | — | — |
| ③ その他 | — | — | — |
| 小計 | 23,173 | 15,049 | 8,123 |
| 連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの | | | |
| ① 株式 | 385 | 405 | △20 |
| ② 債券 | — | — | — |
| ③ その他 | — | — | — |
| 小計 | 385 | 405 | △20 |
| 合計 | 23,558 | 15,455 | 8,103 |

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額12,315千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度(2019年3月31日)

| 区分 | 連結貸借対照表計上額 (千円) | 取得原価 (千円) | 差額 (千円) |
|----------------------------|--------------------|--------------|------------|
| 連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの | | | |
| ① 株式 | 20,002 | 13,378 | 6,623 |
| ② 債券 | — | — | — |
| ③ その他 | — | — | — |
| 小計 | 20,002 | 13,378 | 6,623 |
| 連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの | | | |
| ① 株式 | 2,454 | 3,276 | △822 |
| ② 債券 | — | — | — |
| ③ その他 | — | — | — |
| 小計 | 2,454 | 3,276 | △822 |
| 合計 | 22,456 | 16,655 | 5,800 |

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額11,571千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度において、有価証券について7,156千円減損処理を行っております。

当連結会計年度において、有価証券について743千円減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、連結会計年度末における時価が取得原価に比ベ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30~50%程度下落した場合には、回復可能性を考慮して必要と認められた額について減損処理を行うこととしております。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

2002年3月31日までの期間については退職一時金制度を採用しており、2002年4月1日以降の期間については、確定拠出年金制度を採用しております。本制度移行においては退職一時金を確定拠出年金へ移管していないため、移行時の在籍従業員に対する退職一時金の退職給付に係る負債を計上しております。

なお、退職給付債務は本制度移行前の退職一時金制度に基づき、簡便法により算定したものであります。

2 確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

| | 前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日) | 当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日) |
|----------------|--|--|
| 退職給付に係る負債の期首残高 | 8,854千円 | 6,825千円 |
| 退職給付の支払額 | △2,029 " | △934 " |
| 退職給付に係る負債の期末残高 | 6,825千円 | 5,890千円 |

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

| | 前連結会計年度 (2018年3月31日) | 当連結会計年度 (2019年3月31日) |
|-----------------------|-------------------------|-------------------------|
| 非積立型制度の退職給付債務 | 6,825千円 | 5,890千円 |
| 連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額 | 6,825千円 | 5,890千円 |
| 退職給付に係る負債 | 6,825千円 | 5,890千円 |
| 連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額 | 6,825千円 | 5,890千円 |

3 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度34,634千円、当連結会計年度35,909千円であります。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

| | 前連結会計年度 (2018年3月31日) | 当連結会計年度 (2019年3月31日) |
|-----------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 繰延税金資産 | | |
| 貸倒引当金 | 6,349千円 | 5,583千円 |
| 賞与引当金 | 40,231 " | 39,752 " |
| 繰延売上利益 | 70,450 " | 65,712 " |
| 未払事業税 | 12,329 " | 19,668 " |
| 退職給付に係る負債 | 2,087 " | 1,801 " |
| 役員退職慰労引当金 | 1,233 " | — " |
| 減損損失 | 58,208 " | 50,890 " |
| 投資有価証券評価損 | 12,019 " | 12,246 " |
| 資産除去債務 | 130,746 " | 142,532 " |
| 繰越欠損金 (注) 2 | 11,376 " | 41,724 " |
| その他 | 49,914 " | 42,832 " |
| 計 | 394,947千円 | 422,743千円 |
| 税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額 (注) 2 | — " | △31,307 " |
| 将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額 | — " | △16,630 " |
| 評価性引当額小計 (注) 1 | △27,357千円 | △47,938千円 |
| 繰延税金資産合計 | 367,590千円 | 374,804千円 |

| | | |
|-----------------|-----------|-----------|
| 繰延税金負債 | | |
| 建設協力金 | 3,996千円 | 4,275千円 |
| 資産除去債務に対応する除去費用 | 52,650 " | 59,817 " |
| 圧縮積立金 | 126,572 " | 205,260 " |
| 有価証券時価評価 | 2,477 " | 1,773 " |
| その他 | 590 " | 25 " |
| 繰延税金負債合計 | 186,287千円 | 271,152千円 |
| 繰延税金資産の純額 | 181,302千円 | 103,652千円 |

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

| | 前連結会計年度 (2018年3月31日) | 当連結会計年度 (2019年3月31日) |
|-------------|-------------------------|-------------------------|
| 固定資産—繰延税金資産 | 182,777千円 | 135,528千円 |
| 固定負債—繰延税金負債 | △1,474千円 | △31,876千円 |

(注) 1 評価性引当額が△20,581千円増加しております。この増加の主な内容は、連結子会社において税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額を△20,354千円追加的に認識したことに伴うものであります。

2 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

当連結会計年度 (2019年3月31日)

| | 1年以内 | 1年超 2年以内 | 2年超 3年以内 | 3年超 4年以内 | 4年超 5年以内 | 5年超 | 合計 |
|--------------|------|-------------|-------------|-------------|-------------|--------|------------|
| 税務上の繰越欠損金(a) | — | 10,953 | 11,624 | — | — | 19,146 | 41,724 |
| 評価性引当額 | — | △10,953 | △11,624 | — | — | △8,729 | △31,307 |
| 繰延税金資産 | — | — | — | — | — | 10,416 | (b) 10,416 |

(a) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

(b) 税務上の繰越欠損金41,724千円 (法定実効税率を乗じた額) について、繰延税金資産10,416千円を計上しております。当該税務上の繰越欠損金については、該当連結子会社の将来の課税所得の見込み等により、回収可能と判断し評価性引当金を認識しておりません。

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

| | 前連結会計年度 (2018年3月31日) | 当連結会計年度 (2019年3月31日) |
|-------------------|-------------------------|-------------------------|
| 法定実効税率 | 30.81% | 30.58% |
| (調整) | | |
| 住民税均等割 | 9.64 " | 3.18 " |
| 交際費 | 4.55 " | 1.58 " |
| 留保利益に対する法人税引当 | — " | 1.45 " |
| 評価性引当金の増減 | 6.37 " | 0.03 " |
| その他 | 0.27 " | 3.03 " |
| 税効果会計適用後の法人税等の負担率 | 51.64% | 39.86% |

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

教室及び店舗の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間は有形固定資産の耐用年数とし、割引率は当該耐用年数の期間に対応した国債の利回りを使用して資産除去債務の金額を計算しております。

(3) 当該資産除去債務の総額の増減

| | 前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日) | 当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日) |
|-----------------|--|--|
| 期首残高 | 369,818千円 | 427,140千円 |
| 有形固定資産の取得に伴う増加額 | 60,853 " | 40,197 " |
| 時の経過による調整額 | 3,948 " | 4,067 " |
| 資産除去債務の履行による減少額 | △7,479 " | △5,675 " |
| 期末残高 | 427,140千円 | 465,729千円 |

(賃貸等不動産関係)

当社グループでは、大阪府において、賃貸用のオフィスビル等（土地を含む。）を有しております。

2018年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は31,743千円（賃貸収益は売上高に、主な賃貸費用は売上原価に計上）であります。

2019年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は28,770千円（賃貸収益は売上高に、主な賃貸費用は売上原価に計上）であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は以下のとおりであります。

(単位：千円)

| | | 前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日) | 当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日) |
|------------|-------|--|--|
| 連結貸借対照表計上額 | 期首残高 | 302,191 | 318,375 |
| | 期中増減額 | 16,183 | △1,762 |
| | 期末残高 | 318,375 | 316,612 |
| 期末時価 | | 365,011 | 394,286 |

(注) 1 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。

2 期中増減額のうち、前連結会計年度の主な増加は、自社ビルの一部フロアを自社使用から賃貸用への振替（19,515千円）、減価償却費（3,331千円）であります。
当連結会計年度の主な減少は、減価償却費（1,762千円）であります。

3 期末の時価は、主として「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額（指標等を用いて調整を行ったものを含む。）であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、当社の取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、当社及び連結子会社を構成単位とする財務情報に基づき、事業の種類別に区分した単位により事業活動を展開しております。

従って、当社グループは事業の種類に基づき、「教育関連事業」「不動産賃貸事業」「飲食事業」の3つを報告セグメントとしております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。また、セグメント間の売上高は、第三者間取引価格に基づいております。

なお、「表示方法の変更」に記載のとおり、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正（企業会計基準第28号 平成30年2月16日。）を適用しており、前連結会計年度のセグメント資産については、遡及適用後の金額を記載しております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

| | 報告セグメント | | | | 調整額 (千円) (注)1 | 連結財務諸表 計上額 (千円) (注)2 |
|------------------------|----------------|-----------------|--------------|------------|---------------------|-------------------------------|
| | 教育関連事業 (千円) | 不動産賃貸事業 (千円) | 飲食事業 (千円) | 計 (千円) | | |
| 売上高 | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 11,094,522 | 35,234 | 113,889 | 11,243,646 | — | 11,243,646 |
| セグメント間の内部 売上高又は振替高 | — | 26,350 | — | 26,350 | △26,350 | — |
| 計 | 11,094,522 | 61,584 | 113,889 | 11,269,996 | △26,350 | 11,243,646 |
| セグメント利益 又は損失(△) | 51,053 | 31,743 | △11,939 | 70,856 | △50,306 | 20,550 |
| セグメント資産 | 6,114,804 | 581,413 | 29,611 | 6,725,829 | 1,262,462 | 7,988,291 |
| その他の項目 | | | | | | |
| 減価償却費 | 263,470 | 4,552 | 3,100 | 271,123 | 30,627 | 301,750 |
| 有形固定資産及び 無形固定資産の増加額 | 1,264,375 | 1,805 | 3,977 | 1,270,158 | 56,594 | 1,326,752 |

(注) 1 調整額は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額△50,306千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用50,306千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
 - (2) セグメント資産の調整額1,262,462千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であります。
 - (3) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額56,594千円は、本社の設備投資額であります。
- 2 セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

| | 報告セグメント | | | | 調整額 (千円) (注) 1 | 連結財務諸表 計上額 (千円) (注) 2 |
|------------------------|----------------|-----------------|--------------|------------|----------------------|--------------------------------|
| | 教育関連事業 (千円) | 不動産賃貸事業 (千円) | 飲食事業 (千円) | 計 (千円) | | |
| 売上高 | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 11,741,141 | 36,541 | 113,026 | 11,890,709 | — | 11,890,709 |
| セグメント間の内部 売上高又は振替高 | — | 26,355 | — | 26,355 | △26,355 | — |
| 計 | 11,741,141 | 62,897 | 113,026 | 11,917,064 | △26,355 | 11,890,709 |
| セグメント利益 又は損失(△) | 429,421 | 28,770 | △15,616 | 442,575 | △58,414 | 384,160 |
| セグメント資産 | 6,578,833 | 573,780 | 28,552 | 7,181,165 | 1,677,057 | 8,858,222 |
| その他の項目 | | | | | | |
| 減価償却費 | 310,093 | 4,597 | 3,228 | 317,919 | 26,894 | 344,814 |
| 有形固定資産及び 無形固定資産の増加額 | 885,511 | 407 | 227 | 886,145 | 6,792 | 892,937 |

(注) 1 調整額は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額△58,414千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用58,414千円であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
 - (2) セグメント資産の調整額1,677,057千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であります。
 - (3) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額6,792千円は、本社の設備投資額であります。
- 2 セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1)売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2)有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

相手先が塾生及び不特定多数の一般顧客へのものが全体の100分の90以上を占めており、当該割合が100分の10未満のため記載を省略しております。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1)売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2)有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

相手先が塾生及び不特定多数の一般顧客へのものが全体の100分の90以上を占めており、当該割合が100分の10未満のため記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

| | 教育関連事業 (千円) | 不動産賃貸事業 (千円) | 飲食事業 (千円) | 全社・消去 (千円) | 合計 (千円) |
|------|----------------|-----------------|--------------|---------------|------------|
| 減損損失 | 90,261 | — | — | — | 90,261 |

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

| | 教育関連事業 (千円) | 不動産賃貸事業 (千円) | 飲食事業 (千円) | 全社・消去 (千円) | 合計 (千円) |
|------|----------------|-----------------|--------------|---------------|------------|
| 減損損失 | 28,192 | — | — | — | 28,192 |

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

| | 教育関連事業 (千円) | 不動産賃貸事業 (千円) | 飲食事業 (千円) | 全社・消去 (千円) | 合計 (千円) |
|-------|----------------|-----------------|--------------|---------------|------------|
| 当期償却額 | 5,677 | — | — | — | 5,677 |
| 当期末残高 | 8,322 | — | — | — | 8,322 |

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

| | 教育関連事業 (千円) | 不動産賃貸事業 (千円) | 飲食事業 (千円) | 全社・消去 (千円) | 合計 (千円) |
|-------|----------------|-----------------|--------------|---------------|------------|
| 当期償却額 | 3,094 | — | — | — | 3,094 |
| 当期末残高 | 1,353 | — | — | — | 1,353 |

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等

前連結会計年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

| 種類 | 会社等の名称 | 所在地 | 資本金又は出資金 (千円) | 事業の内容 又は職業 | 議決権の所有 (被所有) 割合(%) | 関連当事者 との関係 | 取引の内容 | 取引金額 (千円) (注) 4 | 科目 | 期末残高 (千円) |
|-----|--------------------------|------------|------------------|---------------|------------------------------------|----------------------|---------------------|-----------------------|-----------|--------------|
| 親会社 | 株式会社 ニューウェーブ (注) 1 | 大阪府 吹田市 | 10,000 | 不動産 賃貸事業 | (被所有) 直接21.2 [29.2] (注) 2 | 当社の教室 賃貸 役員の兼任 | 賃借料 の支払 (注) 3 | 15,830 | 前払 費用 | 1,533 |
| | | | | | | | — | — | 差入 保証金 | 1,800 |

(注) 1 当社の所有株主で、代表取締役社長およびその近親者が議決権の100%を直接所有している会社であり、「役員および個人主要株主等」に該当する会社であります。

2 「議決権の所有（被所有）割合」の欄の[]内は、緊密な者の被所有割合で外数となっております。

3 賃借料の支払については、近隣の取引実態に基づいて決定しております。

4 取引金額には消費税等は含まれておりません。

当連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

| 種類 | 会社等の名称 | 所在地 | 資本金又は出資金 (千円) | 事業の内容 又は職業 | 議決権の所有 (被所有) 割合(%) | 関連当事者 との関係 | 取引の内容 | 取引金額 (千円) (注) 4 | 科目 | 期末残高 (千円) |
|-----|--------------------------|------------|------------------|---------------|------------------------------------|----------------------|---------------------|-----------------------|-----------|--------------|
| 親会社 | 株式会社 ニューウェーブ (注) 1 | 大阪府 吹田市 | 10,000 | 不動産 賃貸事業 | (被所有) 直接21.2 [29.3] (注) 2 | 当社の教室 賃貸 役員の兼任 | 賃借料 の支払 (注) 3 | 17,751 | 前払 費用 | 1,533 |
| | | | | | | | — | — | 差入 保証金 | 1,800 |

(注) 1 当社の所有株主で、代表取締役社長およびその近親者が議決権の100%を直接所有している会社であり、「役員および個人主要株主等」に該当する会社であります。

2 「議決権の所有（被所有）割合」の欄の[]内は、緊密な者の被所有割合で外数となっております。

3 賃借料の支払については、近隣の取引実態に基づいて決定しております。

4 取引金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

該当事項はありません。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

株式会社ニューウェーブ（非上場）

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

| | 前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日) | 当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日) |
|--------------|--|--|
| 1株当たり純資産額 | 422.48円 | 483.10円 |
| 1株当たり当期純利益金額 | 18.49円 | 71.80円 |

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| | 前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日) | 当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日) |
|---------------------------------|--|--|
| 1株当たり当期純利益金額 | | |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 (千円) | 102,191 | 396,730 |
| 普通株主に帰属しない金額 (千円) | — | — |
| 普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益 (千円) | 102,191 | 396,730 |
| 普通株式の期中平均株式数 (株) | 5,525,740 | 5,525,740 |

⑤ 【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

| 区分 | 当期末残高 (千円) | 当期末残高 (千円) | 平均利率 (%) | 返済期限 |
|----------------------------|---------------|---------------|-------------|----------------------------|
| 短期借入金 | 953,668 | 596,668 | 0.41 | — |
| 1年以内に返済予定の長期借入金 | 484,063 | 582,079 | 1.02 | — |
| 1年以内に返済予定のリース債務 | 17,375 | 16,778 | — | — |
| 長期借入金 (1年以内に返済予定のものを除く) | 1,434,868 | 1,996,678 | 0.91 | 2020年4月10日～ 2038年10月10日 |
| リース債務 (1年以内に返済予定のものを除く) | 63,623 | 56,401 | — | 2020年4月20日～ 2047年3月31日 |
| 其他有利子負債 | — | — | — | — |
| 合計 | 2,953,598 | 3,248,605 | — | — |

(注) 1 「平均利率」については、借入金の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

なお、リース債務については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、「平均利率」を記載しておりません。

2 長期借入金及びリース債務（1年以内に返済予定のものを除く）の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額は以下のとおりであります。

| 区分 | 1年超2年以内 (千円) | 2年超3年以内 (千円) | 3年超4年以内 (千円) | 4年超5年以内 (千円) |
|-------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 長期借入金 | 507,155 | 601,479 | 342,008 | 216,644 |
| リース債務 | 15,849 | 10,084 | 3,816 | 3,240 |

【資産除去債務明細表】

連結財務諸表規則第15条の23に規定する注記事項として記載しているため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

| (累計期間) | 第1四半期 | 第2四半期 | 第3四半期 | 当連結会計年度 |
|--|-----------|-----------|-----------|------------|
| 売上高 (千円) | 2,102,544 | 5,407,881 | 9,083,698 | 11,890,709 |
| 税金等調整前四半期(当期) 純利益金額又は 税金等調整前四半期 純損失金額(△) (千円) | △500,018 | 71,915 | 916,223 | 659,651 |
| 親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益金額又は 親会社株主に帰属する 四半期純損失金額(△) (千円) | △357,689 | 31,244 | 566,868 | 396,730 |
| 1株当たり 四半期(当期)純利益金額又は 1株当たり 四半期純損失金額(△) (円) | △64.73 | 5.65 | 102.59 | 71.80 |

| (会計期間) | 第1四半期 | 第2四半期 | 第3四半期 | 第4四半期 |
|---|--------|-------|-------|--------|
| 1株当たり 四半期純利益金額又は 1株当たり 四半期純損失金額(△) (円) | △64.73 | 70.39 | 96.93 | △30.79 |

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

① 【貸借対照表】

(単位：千円)

| | 前事業年度 (2018年3月31日) | 当事業年度 (2019年3月31日) |
|---------------|-----------------------|-----------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 933,581 | 1,294,511 |
| 営業未収入金 | 1,012,774 | 1,032,869 |
| 商品 | 65,371 | 78,962 |
| 貯蔵品 | 12,036 | 16,691 |
| 前渡金 | 18,465 | 25,368 |
| 前払費用 | 178,193 | 219,226 |
| 1年内回収予定の長期貸付金 | 11,732 | 9,704 |
| その他 | 488,348 | 364,386 |
| 貸倒引当金 | △20,763 | △18,257 |
| 流動資産合計 | 2,699,741 | 3,023,462 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物 | ※1 2,122,968 | ※1 2,415,005 |
| 構築物 | 77,676 | 86,499 |
| 車両運搬具 | 0 | 485 |
| 工具、器具及び備品 | 231,391 | 211,599 |
| 土地 | ※1 935,700 | ※1 935,730 |
| リース資産 | 100,819 | 84,537 |
| 建設仮勘定 | - | 216 |
| 有形固定資産合計 | 3,468,555 | 3,734,073 |
| 無形固定資産 | | |
| のれん | 2,407 | 1,353 |
| ソフトウェア | 59,816 | 98,500 |
| リース資産 | - | - |
| その他 | 72,320 | 18,636 |
| 無形固定資産合計 | 134,544 | 118,489 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 35,873 | 34,027 |
| 関係会社株式 | 69,000 | 79,200 |
| 出資金 | 60 | 60 |
| 長期貸付金 | 73,466 | 124,813 |
| 長期前払費用 | 31,562 | 34,393 |
| 繰延税金資産 | 179,581 | 134,000 |
| 差入保証金 | 915,528 | 918,839 |
| その他 | 76,632 | 33,421 |
| 投資その他の資産合計 | 1,381,705 | 1,358,757 |
| 固定資産合計 | 4,984,805 | 5,211,320 |
| 資産合計 | 7,684,547 | 8,234,782 |

(単位：千円)

| | 前事業年度 (2018年3月31日) | 当事業年度 (2019年3月31日) |
|---------------|-----------------------|-----------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 買掛金 | 179,312 | 192,577 |
| 短期借入金 | ※1 953,668 | ※1 596,668 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | ※1 431,491 | ※1 525,507 |
| リース債務 | 17,375 | 15,049 |
| 未払金 | 929,475 | 705,458 |
| 未払費用 | 203,644 | 202,906 |
| 未払法人税等 | 51,483 | 206,130 |
| 未払消費税等 | 35,417 | 104,369 |
| 前受金 | 684,665 | 734,360 |
| 預り金 | 32,119 | 38,522 |
| 賞与引当金 | 124,090 | 121,664 |
| その他 | 3,184 | - |
| 流動負債合計 | 3,645,928 | 3,443,213 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | ※1 1,319,262 | ※1 1,713,244 |
| リース債務 | 63,623 | 49,773 |
| 退職給付引当金 | 6,825 | 5,890 |
| 資産除去債務 | 420,764 | 462,911 |
| 長期預り保証金 | 25,525 | 25,403 |
| その他 | 11,400 | 10,800 |
| 固定負債合計 | 1,847,400 | 2,268,024 |
| 負債合計 | 5,493,329 | 5,711,237 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 235,108 | 235,108 |
| 資本剰余金 | | |
| 資本準備金 | 175,108 | 175,108 |
| 資本剰余金合計 | 175,108 | 175,108 |
| 利益剰余金 | | |
| 利益準備金 | 2,035 | 2,035 |
| その他利益剰余金 | | |
| 別途積立金 | 200,000 | 200,000 |
| 圧縮積立金 | 282,130 | 365,402 |
| 繰越利益剰余金 | 1,579,663 | 1,830,315 |
| 利益剰余金合計 | 2,063,828 | 2,397,753 |
| 自己株式 | △288,452 | △288,452 |
| 株主資本合計 | 2,185,592 | 2,519,517 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 5,625 | 4,026 |
| 評価・換算差額等合計 | 5,625 | 4,026 |
| 純資産合計 | 2,191,218 | 2,523,544 |
| 負債純資産合計 | 7,684,547 | 8,234,782 |

②【損益計算書】

(単位：千円)

| | 前事業年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月 31日) | 当事業年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日) |
|--------------|--|--|
| 売上高 | 10,876,607 | 11,606,358 |
| 売上原価 | 8,994,073 | 9,298,698 |
| 売上総利益 | 1,882,533 | 2,307,660 |
| 販売費及び一般管理費 | ※1 1,863,323 | ※1 1,852,472 |
| 営業利益 | 19,210 | 455,187 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 1,180 | 1,730 |
| 受取配当金 | 637 | 718 |
| 補助金収入 | 315,057 | 147,171 |
| その他 | 18,643 | 52,609 |
| 営業外収益合計 | 335,519 | 202,230 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 21,221 | 23,854 |
| その他 | 1,383 | 517 |
| 営業外費用合計 | 22,605 | 24,372 |
| 経常利益 | 332,124 | 633,046 |
| 特別利益 | | |
| 事業譲渡益 | - | 7,460 |
| 抱合せ株式消滅差益 | ※3 52,488 | - |
| 特別利益合計 | 52,488 | 7,460 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産売却損 | ※4 8,395 | - |
| 投資有価証券評価損 | 7,156 | 743 |
| 減損損失 | 84,843 | 17,779 |
| 特別損失合計 | 100,395 | 18,522 |
| 税引前当期純利益 | 284,217 | 621,983 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 50,694 | 183,477 |
| 法人税等調整額 | 54,236 | 46,284 |
| 法人税等合計 | 104,930 | 229,762 |
| 当期純利益 | 179,286 | 392,221 |

③【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

(単位：千円)

| | 株主資本 | | | | | | | |
|---------------------|---------|---------|---------|-------|----------|---------|-----------|-----------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | 利益準備金 | 利益剰余金 | | | 利益剰余金合計 |
| | | 資本準備金 | 資本剰余金合計 | | その他利益剰余金 | | | |
| | | | | 別途積立金 | 圧縮積立金 | 繰越利益剰余金 | | |
| 当期首残高 | 235,108 | 175,108 | 175,108 | 2,035 | 200,000 | 75,080 | 1,664,065 | 1,941,180 |
| 当期変動額 | | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | | | | | △56,638 | △56,638 |
| 当期純利益 | | | | | | | 179,286 | 179,286 |
| 圧縮積立金の積立 | | | | | | 218,014 | △218,014 | - |
| 圧縮積立金の取崩 | | | | | | △10,963 | 10,963 | - |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | | | | | | | | |
| 当期変動額合計 | - | - | - | - | - | 207,050 | △84,402 | 122,648 |
| 当期末残高 | 235,108 | 175,108 | 175,108 | 2,035 | 200,000 | 282,130 | 1,579,663 | 2,063,828 |

| | 株主資本 | | 評価・換算差額等 | | 純資産合計 |
|---------------------|----------|-----------|--------------|------------|-----------|
| | 自己株式 | 株主資本合計 | その他有価証券評価差額金 | 評価・換算差額等合計 | |
| 当期首残高 | △288,452 | 2,062,944 | 4,031 | 4,031 | 2,066,976 |
| 当期変動額 | | | | | |
| 剰余金の配当 | | △56,638 | | | △56,638 |
| 当期純利益 | | 179,286 | | | 179,286 |
| 圧縮積立金の積立 | | - | | | - |
| 圧縮積立金の取崩 | | - | | | - |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | | | 1,593 | 1,593 | 1,593 |
| 当期変動額合計 | - | 122,648 | 1,593 | 1,593 | 124,241 |
| 当期末残高 | △288,452 | 2,185,592 | 5,625 | 5,625 | 2,191,218 |

当事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：千円)

| | 株主資本 | | | | | | | |
|---------------------|---------|---------|---------|-------|----------|---------|-----------|-----------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | 利益準備金 | 利益剰余金 | | | 利益剰余金合計 |
| | | 資本準備金 | 資本剰余金合計 | | その他利益剰余金 | | | |
| | | | | 別途積立金 | 圧縮積立金 | 繰越利益剰余金 | | |
| 当期首残高 | 235,108 | 175,108 | 175,108 | 2,035 | 200,000 | 282,130 | 1,579,663 | 2,063,828 |
| 当期変動額 | | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | | | | | △58,296 | △58,296 |
| 当期純利益 | | | | | | | 392,221 | 392,221 |
| 圧縮積立金の積立 | | | | | | 96,787 | △96,787 | - |
| 圧縮積立金の取崩 | | | | | | △13,515 | 13,515 | - |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | | | | | | | | |
| 当期変動額合計 | - | - | - | - | - | 83,272 | 250,652 | 333,924 |
| 当期末残高 | 235,108 | 175,108 | 175,108 | 2,035 | 200,000 | 365,402 | 1,830,315 | 2,397,753 |

| | 株主資本 | | 評価・換算差額等 | | 純資産合計 |
|---------------------|----------|-----------|--------------|------------|-----------|
| | 自己株式 | 株主資本合計 | その他有価証券評価差額金 | 評価・換算差額等合計 | |
| 当期首残高 | △288,452 | 2,185,592 | 5,625 | 5,625 | 2,191,218 |
| 当期変動額 | | | | | |
| 剰余金の配当 | | △58,296 | | | △58,296 |
| 当期純利益 | | 392,221 | | | 392,221 |
| 圧縮積立金の積立 | | - | | | - |
| 圧縮積立金の取崩 | | - | | | - |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | | | △1,598 | △1,598 | △1,598 |
| 当期変動額合計 | - | 333,924 | △1,598 | △1,598 | 332,326 |
| 当期末残高 | △288,452 | 2,519,517 | 4,026 | 4,026 | 2,523,544 |

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(1)子会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

(2)その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

2 たな卸資産の評価基準及び評価方法

商品

移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

3 固定資産の減価償却の方法

(1)有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 3年～40年

車両運搬具 2年～4年

工具、器具及び備品 3年～17年

(2)無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

(3)リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

4 引当金の計上基準

(1)貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2)賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支払に備えるため、賞与支給見込額の当事業年度負担額を計上しております。

(3)退職給付引当金

当社は、2002年4月1日より確定拠出年金制度を採用しております。本制度移行においては退職一時金を確定拠出年金へ移管していないため、移行時の在籍従業員に対する退職一時金に係る退職給付引当金を計上しております。なお、退職給付債務は本制度移行前の退職一時金制度に基づき、簡便法により算定したものであります。

5 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当連結会計年度の費用として処理しております。

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日。以下「税効果会計基準一部改正」という。)を当事業年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」154,431千円は、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」179,581千円に含めて表示しております。

(貸借対照表関係)

※1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は次のとおりであります。

| | 前事業年度 (2018年3月31日) | 当事業年度 (2019年3月31日) |
|----|-----------------------|-----------------------|
| 建物 | 202,410千円 | 583,113千円 |
| 土地 | 595,709 " | 863,634 " |
| 計 | 798,119千円 | 1,446,747千円 |

担保付債務は次のとおりであります。

| | 前事業年度 (2018年3月31日) | 当事業年度 (2019年3月31日) |
|---------------|-----------------------|-----------------------|
| 短期借入金 | 843,672千円 | 496,668千円 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 404,815 " | 492,053 " |
| 長期借入金 | 1,319,262 " | 1,490,632 " |
| 計 | 2,604,422千円 | 2,479,354千円 |

2 偶発債務

債務保証

次の関係会社について、金融機関からの借入金に対し債務保証を行っております。

| | 前事業年度 (2018年3月31日) | 当事業年度 (2019年3月31日) |
|-------|-----------------------|-----------------------|
| ㈱アプリス | 121,510千円 | 218,934千円 |
| 計 | 121,510千円 | 218,934千円 |

3 当座貸越契約

当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。これらの契約に基づく当事業年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

| | 前事業年度 (2018年3月31日) | 当事業年度 (2019年3月31日) |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 当座貸越限度額及び貸出コミットメントの総額 | 1,628,000千円 | 1,728,000千円 |
| 借入実行残高 | 1,134,668 " | 984,668 " |
| 差引額 | 493,332千円 | 743,332千円 |

4 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務（区分表示したものを除く）

| | 前事業年度 (2018年3月31日) | 当事業年度 (2019年3月31日) |
|--------|-----------------------|-----------------------|
| 短期金銭債権 | 101,556千円 | 136,740千円 |
| 長期金銭債権 | 57,000 " | 55,700 " |
| 短期金銭債務 | 137,372 " | 124,181 " |
| 長期金銭債務 | 10,149 " | 10,149 " |

(損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち主要なものは次のとおりであります。

| | 前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日) | 当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日) |
|---------------|--|--|
| 広告宣伝費 | 659,462千円 | 622,492千円 |
| 給与手当 | 240,108 " | 230,145 " |
| 賞与引当金繰入額 | 14,794 " | 13,385 " |
| 貸倒引当金繰入額 | 9,719 " | 4,437 " |
| 減価償却費 | 48,840 " | 55,785 " |
| 退職給付費用 | 4,561 " | 4,148 " |
| 販売費と一般管理費の構成比 | | |
| 販売費 | 62.2% | 61.8% |
| 一般管理費 | 37.8% | 38.2% |

2 関係会社との取引高は次のとおりであります。

| | 前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日) | 当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日) |
|----------------|--|--|
| 売上高 | 33,937千円 | 35,690千円 |
| 営業費用 | 531,748 " | 459,645 " |
| 営業取引以外の取引高(収入) | 8,824 " | 7,518 " |

※3 抱合せ株式消滅差益

前事業年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

抱合せ株式消滅差益は、2017年10月1日付で当社が連結子会社でありました株式会社個夢を吸収合併したことに伴い発生した額を計上しております。

※4 固定資産売却損の内訳

| | 前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日) | 当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日) |
|-----|--|--|
| 建物 | 3,053千円 | 一千円 |
| その他 | 5,342 " | — " |
| 計 | 8,395千円 | 一千円 |

(有価証券関係)

子会社株式は、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められるため、子会社株式の時価を記載しておりません。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式の貸借対照表計上額は次のとおりです。

(単位：千円)

| 区分 | 前事業年度 (2018年3月31日) | 当事業年度 (2019年3月31日) |
|-------|-----------------------|-----------------------|
| 子会社株式 | 69,000 | 79,200 |

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

| | 前事業年度 (2018年3月31日) | 当事業年度 (2019年3月31日) |
|-----------------|-----------------------|-----------------------|
| 繰延税金資産 | | |
| 賞与引当金 | 37,946千円 | 37,204千円 |
| 未払事業税 | 12,312 " | 19,668 " |
| 貸倒引当金 | 6,349 " | 5,583 " |
| 繰延売上利益 | 70,450 " | 65,712 " |
| 退職給付引当金 | 2,087 " | 1,801 " |
| 減損損失 | 58,208 " | 50,890 " |
| 投資有価証券評価損 | 12,019 " | 12,246 " |
| 資産除去債務 | 129,643 " | 141,558 " |
| その他 | 49,752 " | 42,258 " |
| 計 | 378,770千円 | 376,924千円 |
| 評価性引当額 | △16,403千円 | △16,630千円 |
| 繰延税金資産合計 | 362,367千円 | 360,293千円 |
| 繰延税金負債 | | |
| 建設協力金 | 3,996千円 | 4,725千円 |
| 資産除去債務に対応する除去費用 | 52,031 " | 59,281 " |
| 圧縮積立金 | 124,280 " | 160,962 " |
| その他 | 2,477 " | 1,773 " |
| 繰延税金負債合計 | 182,785千円 | 226,292千円 |
| 繰延税金資産の純額 | 179,581千円 | 134,000千円 |

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

| | 前事業年度 (2018年3月31日) | 当事業年度 (2019年3月31日) |
|-------------------|-----------------------|-----------------------|
| 法定実効税率 | 30.81% | 30.58% |
| (調整) | | |
| 住民税均等割 | 6.75 " | 3.22 " |
| 交際費 | 3.38 " | 1.69 " |
| 合併による影響額 | △4.85 " | — " |
| 留保金課税 | — " | 1.53 " |
| その他 | 0.83 " | △0.08 " |
| 税効果会計適用後の法人税等の負担率 | 36.92% | 36.94% |

(企業結合等関係)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

④ 【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

| 区分 | 資産の種類 | 当期首残高 | 当期増加額 | 当期減少額 | 当期償却額 | 当期末残高 | 減価償却累計額 |
|--------|-----------|-----------|---------|--------------------|---------|-----------|-----------|
| 有形固定資産 | 建物 | 3,227,574 | 488,577 | 37,932 (16,376) | 180,164 | 3,678,220 | 1,263,215 |
| | 構築物 | 95,438 | 13,831 | — | 5,007 | 109,269 | 22,769 |
| | 車両運搬具 | 9,019 | 529 | — | 44 | 9,549 | 9,064 |
| | 工具、器具及び備品 | 697,884 | 71,642 | 4,908 (1,355) | 90,079 | 764,618 | 553,019 |
| | 土地 | 935,700 | 30 | — | — | 935,730 | — |
| | リース資産 | 217,346 | — | — | 16,282 | 217,346 | 132,809 |
| | 建設仮勘定 | — | 216 | — | — | 216 | — |
| | 計 | 5,182,964 | 574,827 | 42,840 (17,732) | 291,577 | 5,714,951 | 1,980,877 |
| 無形固定資産 | のれん | 7,959 | 1,689 | 1,689 | 1,054 | 7,959 | 6,606 |
| | ソフトウェア | 139,943 | 76,763 | — | 38,079 | 216,706 | 118,206 |
| | リース資産 | 81,964 | — | 81,964 | — | — | — |
| | その他 | 72,320 | 13,178 | 66,862 | — | 18,636 | — |
| | 計 | 302,187 | 91,631 | 150,516 | 39,133 | 243,302 | 124,812 |

(注) 1 当期増加額のうち主なものは次のとおりであります。

| | | | |
|-----------|-------------------|---------|----|
| 建物 | 新規開校教室等建物附属設備 | 181,043 | 千円 |
| | 新規開園保育所建物及び建物附属設備 | 270,440 | 〃 |
| | 既存教室等建物及び建物附属設備 | 35,174 | 〃 |
| | 既存保育所建物附属設備 | 579 | 〃 |
| | 本社建物附属設備 | 1,340 | 〃 |
| 構築物 | 新規開校教室等構築物 | 630 | 〃 |
| | 新規開園保育所構築物 | 12,240 | 〃 |
| | 既存教室等構築物 | 340 | 〃 |
| | 既存保育所構築物 | 620 | 〃 |
| 車両運搬具 | 本社車両運搬具 | 529 | 〃 |
| 工具、器具及び備品 | 新規開校教室等器具備品 | 33,602 | 〃 |
| | 新規開園保育所器具備品 | 10,650 | 〃 |
| | 既存教室等器具備品 | 23,098 | 〃 |
| | 本社器具備品 | 4,291 | 〃 |

2 「当期減少額」欄の()内は内書きで、減損損失の計上額であります。

3 「当期首残高」及び「当期末残高」は、取得価額により記載しております。

【引当金明細表】

(単位：千円)

| 科目 | 当期首残高 | 当期増加額 | 当期減少額 | 当期末残高 |
|-------|---------|---------|---------|---------|
| 貸倒引当金 | 20,763 | 4,437 | 6,943 | 18,257 |
| 賞与引当金 | 124,090 | 121,664 | 124,090 | 121,664 |

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

| | |
|------------|---|
| 事業年度 | 4月1日から3月31日まで |
| 定時株主総会 | 6月中 |
| 基準日 | 3月31日 |
| 剰余金の配当の基準日 | 9月30日、3月31日 |
| 1単元の株式数 | 100株 |
| 単元未満株式の買取り | |
| 取扱場所 | (特別口座) 大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 |
| 株主名簿管理人 | (特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 |
| 取次所 | — |
| 買取手数料 | 無料 |
| 公告掲載方法 | 当会社の公告方法は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合の公告方法は、日本経済新聞に掲載する方法とする。 公告掲載URL https://www.kaisei-group.co.jp |
| 株主に対する特典 | 該当事項はありません。 |

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等の会社名 株式会社ニューウェーブ

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第32期（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）2018年6月28日近畿財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

事業年度 第32期（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）2018年6月28日近畿財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

第33期第1四半期（自 2018年4月1日 至 2018年6月30日）2018年8月9日近畿財務局長に提出

第33期第2四半期（自 2018年7月1日 至 2018年9月30日）2018年11月14日近畿財務局長に提出

第33期第3四半期（自 2018年10月1日 至 2018年12月31日）2019年2月14日近畿財務局長に提出

(4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）の規定に基づく臨時報告書

2018年7月2日近畿財務局長に提出

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2019年6月20日

株式会社成学社
取締役会 御中

仰星監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 洪 誠悟 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 池上 由香 印

＜財務諸表監査＞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社成学社の2018年4月1日から2019年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社成学社及び連結子会社の2019年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社成学社の2019年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社成学社が2019年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

※1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2019年6月20日

株式会社成学社
取締役会 御中

仰星監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 洪 誠悟 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 池上 由香 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社成学社の2018年4月1日から2019年3月31日までの第33期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社成学社の2019年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- ※1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】 内部統制報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の4第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 2019年6月26日

【会社名】 株式会社 成学社

【英訳名】 SEIGAKUSHA CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 永井 博

【最高財務責任者の役職氏名】 該当事項はありません。

【本店の所在の場所】 大阪府大阪市北区中崎西三丁目1番2号

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

代表取締役社長永井博は、当社の財務報告に係る内部統制の整備及び運用に責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の設定について（意見書）」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備及び運用しております。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものであります。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性があります。

2 【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

財務報告に係る内部統制の評価は、当事業年度の末日である2019年3月31日を基準日として行われており、評価に当たっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠しております。

本評価においては、連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制（全社的な内部統制）の評価を行った上で、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定しております。当該業務プロセスの評価においては、選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備及び運用状況を評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行いました。

財務報告に係る内部統制の評価の範囲は、会社及び連結子会社について、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定しております。財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性は、金額的及び質的影響の重要性を考慮して決定しており、会社及び連結子会社1社を対象として行った全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定しました。なお、連結子会社3社については、金額的及び質的重要性の観点から僅少であると判断し、全社的な内部統制の評価範囲に含めておりません。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、各事業拠点の前連結会計年度の売上高（連結会社間取引消去後）の金額が高い拠点から合算していき、前連結会計年度の連結売上高の概ね2/3に達している1事業拠点を「重要な事業拠点」としました。選定した重要な事業拠点においては、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目として売上高、営業未収入金及び人件費に至る業務プロセスを評価の対象としました。さらに、選定した重要な事業拠点にかかわらず、それ以外の事業拠点をも含めた範囲について、重要な虚偽記載の発生可能性が高く、見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセスやリスクが大きい取引を行っている事業又は業務に係る業務プロセスを財務報告への影響を勘案して重要性の大きい業務プロセスとして評価対象に追加しております。

3 【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、当事業年度末日時点において、当社の財務報告に係る内部統制は有効であると判断しました。

4 【付記事項】

該当事項はありません。

5 【特記事項】

該当事項はありません。

【表紙】

【提出書類】 確認書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の2第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 2019年6月26日

【会社名】 株式会社 成学社

【英訳名】 SEIGAKUSHA CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 永井 博

【最高財務責任者の役職氏名】 該当事項はありません。

【本店の所在の場所】 大阪府大阪市北区中崎西三丁目1番2号

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【有価証券報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長永井博は、当社の第33期(自2018年4月1日 至2019年3月31日)の有価証券報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。